Curriculum and Standards Framework Ⅱ（CSFⅡ）
Languages Other Than English
Japanese Supplement

カリキュラムと学習基準の枠組み Ⅱ
LOTE（英語以外の言語）
日本語用別冊

Board of Studies, Victoria
ビクトリア州教育委員会

日本語版発行：独立行政法人国際交流基金日本語国際センター
翻訳：宮崎　里司
（早稲田大学大学院日本語教育研究科助教授）
校閲：室屋　春光
（独立行政法人国際交流基金派遣
ビクトリア州教育省日本語アドバイザー）

Curriculum and Standards Framework Ⅱ © Victorian Curriculum and Assessment Authority, 2000

Translated and reproduced by the Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa, with the permission of the Victorian Curriculum and Assessment Authority, Australia.

Original material and updates available on the VCAA website :
www.vcaa.vic.edu.au

はじめに

いま海外の日本語教育は、初中等教育において拡大しつつあります。高等教育とは異なり、年少者に対する日本語および日本に関する基礎教育を担う初中等教育においては、とりわけ、統一性や一貫性のあるシラバスやガイドラインの整備が重要となるのです。すでに本格化している国々においても、さらに充実を図るために、常にシラバスやガイドラインの最新化が行われています。その動向や成果は、これから本格的に取り組もうとする国々にとっては、きわめて重要な参考資料となるのです。国際交流基金のみならず、海外の日本語教育に携る関係者にとっても、それぞれの国や地域での教育指針を知り、的確に対応するうえで貴重な情報となっています。日本語国際センターでは、それら原本を附属図書館に収蔵して関係者に提供してまいりましたが、和訳がなかったため、原語を解する方々のみの利用に限られていました。

その不都合を解消することによって関係者間の相互交流を図り、より一層日本語教育を拡充するための一助として、2002年（平成14年）に７カ国（韓国、中国、インドネシア、ニュージーランド、米国*、英国、ドイツ）から９点のシラバス・ガイドラインを選び翻訳刊行（分冊）し、ホームページ上でも公開いたしました。

今回はその続刊として、約30万人の日本語学習者を擁するオーストラリアのシラバスのうち、ニューサウスウェールズ州のもの３点（2003年12月既刊）、ビクトリア州の２点を選んで翻訳刊行（分冊）することといたしました。

今後も引き続き多様な取組みをご紹介してまいりたいと計画しております。

今回の翻訳刊行は、それぞれの原著作者・機関（別記）のご理解とご協力なしには実現いたしませんでした。日本語教育に携る者同士の共感が実を結んだものと思います。ここに、謹んで謝意を表します。

2004年（平成16年）３月

独立行政法人　国際交流基金
日本語国際センター
所長　加藤　秀俊

＊米国分は、ホームページ上での公開のみ。

日本語翻訳版の刊行にあたって

本書「カリキュラムと学習基準の枠組みⅡ－LOTE（外国語）日本語用別冊」はオーストラリア・ビクトリア州教育委員会（Board of Studies）が2000年に発行した“Curriculum and Standard Framework Ⅱ－LOTE Japanese Supplement”（略称 CSF）を日本語に訳したものです。

オーストラリアは連邦制国家であるため初等中等教育機関の学習指導要領は各州によって異なっています。本書はビクトリア州の小学校（Primary School－ビクトリア州では Preparatory あるいは Prep と呼ばれる５歳児クラスから義務教育がはじまり６年生まで）と中等学校（Secondary College－日本の中学校と高校に相当）の７年生から10年生までの日本語の授業のための指導要領です。11、12年生の課程は VCE（Victorian Certificate of Education）と呼ばれ、“Study Design：Language Other Than English, Japanese：Second Language”というシラバスを使用します（本翻訳と同時にこのシラバスの翻訳も発行されます）。

本書はあくまで初等中等教育における日本語教育の枠組みを示すものであり、具体的なコースの設計（教授法、時間配当、教える項目など）は各学校あるいは各教師の手にゆだねられています。

本書には“パスウェイ１（Pathway 1）”と“パスウェイ２（Pathway 2）”の二つの異なる課程があります。“パスウェイ１”は Prep から10年生まで11年間の課程で、“パスウェイ２”は７年生から10年生まで、すなわち中等学校から日本語の勉強をはじめる学習者を対象とする課程です。学習時間数と学習開始時期が異なるため両者の内容は異なっています。しかし、いずれの課程で学習しても最終的には11年生からはじまる VCE の日本語の学習に移行するための十分な学力がつくように配慮されています。

“パスウェイ１”にはレベル１からレベル６までの段階があり、“パスウェイ２”にはレベル４Ａからレベル６Ａまでの段階があります。学年によって課程の段階が分けられていないのは、学校によってあるいは学年によって配当授業時間数が異なり、また学校によって学習到達速度も異なるという事実に鑑みて、教師が自分が担当するコースの実情に即した授業プランを立てられるようにするためのものです。

各レベルにはそのレベル内で学習すべき項目が概要から細目にわたって示されており（「レベルの総合説明－Level Statements」「カリキュラムの焦点－Curriculum Focus Statements」「学習達成目標と指標－Learning Outcomes and Indicators」）、教師はそこに記されている項目が学習成果として達成できるように授業計画を作成し実施します。しかし、先に述べたように具体的な内容はすべて教師にまかされているため、コースの成功如何は、教師自身の力量、使用可能なリソースの有無、授業時間以外の準備時間など個別的な要素に大きく左右されます。また、ビクトリア州では Prep から10年生までの外国語に配当されている授業時間数は、特に小学校では十分ではなく、多くの教師がこの CSF の要求を満たすことに困難を感じていることも事実です。

ビクトリア州の外国語教育についてもっと詳しくお知りになりたい方には、その現状と問題点および問題解決への指標が示されている“Languages for Victoria's Future－An analysis of languages in Victorian schools”をお読みになることをお勧めします。インターネットのＵＲＬは以下のとおりです。
http : //www.sofweb.vic.edu.au/lem/lote/pdfs/language_report.pdf

ビクトリア州教育省
日本語アドバイザー
（国際交流基金派遣）
室屋　春光

目　　次

はしがき …… 1

序　　文 …… 2

「カリキュラムと学習基準の枠組みⅡ」について …… 3

英語以外の言語（Languages Other Than English : LOTE） …… 8

学習達成目標（learning outcomes）の概要（パスウェイ１） …… 16

パスウェイ１

　　レベル１ …… 18

　　レベル２ …… 22

　　レベル３ …… 27

　　レベル４ …… 31

　　レベル５ …… 36

　　レベル６ …… 41

学習達成目標（learning outcomes）の概要（パスウェイ２） …… 47

パスウェイ２

　　レベル４Ａ …… 48

　　レベル５Ａ …… 54

　　レベル６Ａ …… 59

各言語の検定Ⅱ（Certificate Ⅱ in Applied Languages）
モジュール２Ａの達成目標（outcomes）の概要 …… 66

VET、CSF、VCE ユニット１と２の達成目標（outcomes）を
　組み込んだタスクの概要の例 …… 67

日本語版用用語集

■VCE（Victorian Certificate of Education）

オーストラリア・ビクトリア州の中等教育修了証、修了資格試験（大学の入学認定を兼ねる）および、year11，12（高校２、３年）のレベルをいう。

■AQF（Australian Qualifications Framework）

生涯学習やスキル習得のニーズを考慮してつくられた柔軟な学習システムで、オーストラリアの高校や専門学校、大学などで取得した単位や12の学位・資格を全国的に認定する制度。つまり、オーストラリア国内の教育機関で取得した単位、学位や資格は、全国共通の枠が設けられているので、ほかの学校でも認定される。

■VET（Vocational Education and Training）

オーストラリア政府が産業界と連携して提供する全国的な職業教育訓練のシステム。専門学校の中には、州政府により運営されている TAFE や、政府の認可を受けた私立の専門学校がある。

■TAFE（Technical and Further Education）

VET（職業教育訓練校）のうち州政府により運営されている総合専門学校。

はしがき

「カリキュラムと学習基準の枠組みⅡ」（CSF 第二版）は、ビクトリア州の教育界のすべての部門によるすばらしい協同作業の結果である。２年間に亘る見直し作業の間に、一万五千人以上のビクトリア州の教師と、教育者、各科目の専門家、研究者、各種の教師協会、それにコミュニティーグループがこの改訂に携わった。各主要学習領域委員会のメンバーは、CSF の見直し作業の仕事をサポートし関係各方面との協議の結果を CSFⅡの改訂に組み入れるために、もてる時間と専門知識を惜しみなく提供してくれた。

結果として完成したものは、第一版で示された教育と学習に関する貴重なアイデアを生かしながら、オーストラリアの最高度の基準および国際的に最高度の基準に照らしても遜色のないフレームワーク（枠組み）となっている。

この枠組み（F）は、すべての生徒の学習ニーズにこたえるという点を踏まえ教師と親の両者をサポートすることができるようにデザインされていて、Prep から11年生までの間に、教えたり学んだりする際に何を重視すべきかを示し（C－カリキュラム）、８つの主要学習領域で生徒が達成することを期待されていること（S－スタンダード）についてはっきりと記述している。

この版では、情報化が進みつつある社会において、現在、生徒が進学や就職の準備をするにあたって必要なスキルや知識を考慮に入れている。このことを反映して、すべての学習領域で情報技術にさらに力点をおいたり、幅広い就職機会を得るための職業上のスキルを向上させたりすることを強調している。

本教育委員会は、Susan Pascoe 氏が議長を務めた CSF の諮問委員会（Advisory Committee）の貢献に謝意を表したい。同氏は絶え間なくリーダーシップを発揮し、とくにしっかりした審議過程を確保するのに力を尽くしてくれた。また、同氏の率いる諮問委員会は非常に質の高い助言を与えてくれたのである。

本教育委員会は、各学校がよりよいプログラムを作り上げて行くための礎石としてこのフレームワークを使用し、効果的に生徒の到達度を観察して親やコミュニティーにそれを報告していってくれることを期待している。

Professor Kwong Lee Dow
教育委員会委員長

Chris Kotur
事務局長代理

序　　文

カリキュラムというものは、その地域社会が次世代の学習者に学んでほしいと考える願いを具体化したものである。こうした願いが望ましい成果（outcomes）として明示されるとき、教育の基準は、学習者、教師、そして親にとって、わかりやすいものとなる。ビクトリア州の「カリキュラムと学習基準の枠組み」（CSF－Curriculum and Standards Framework）は、生徒が知るべき、また、できるようになるべき内容を明らかにしている。CSF 第２版は国内外の標準的な基準を満たしており、その基準の示すところは、オーストラリアと同様な水準にある世界各国が学習者に期待している基準に勝るともおとらないものである。

CSF 第２版は、１）学習者に期待されることを明らかにし、２）低学年（Prep－４年）において読み書きや計算能力に焦点を当てる場所を創り、３）すべての主要学習領域において情報やコミュニケーション・テクノロジーの技術を組み込み、４）枠組みの中に公民、市民権の教育、識字・計算力の国家基準（national literacy and numeracy benchmarks）を統合し、５）義務教育期間からそれ以後の教育と職業訓練へとつながる学習コース（Pathway）を明確にする。

教育者、専門家、コミュニティーグループは一連の CSF に関する公聴会の段階を通して、CFS の見直しに貢献してきた。こうした人々の CSF の改訂へのフィードバックのおかげで、CSF は現場での使用によりふさわしいものとなり、また、ビクトリア州の生徒が職場やコミュニティー、家庭などの場で（それは地域社会でのことも国際的な場でのこともある）必要とする知識や技能を身につけることを可能にしている。

教育委員会のスタッフは公聴会からの意見を統合すべくたゆまない努力を重ねてきた。Chris Kotur 氏は優れたリーダシップとプロジェクト管理能力を発揮し、鋭い考察力と細部への目配りをもってすべての制作段階を指揮してきた。

CSF 諮問委員会のメンバーは、各学校がプログラムの計画や報告をする上で、この改訂版フレームワークが確固とした基盤となるものであると高く評価している。

Susan Pascoe
CSF 諮問委員会　委員長

「カリキュラムと学習基準の枠組みⅡ」について

「カリキュラムと学習基準の枠組みⅡ（Curriculum and Standards Framework）」（略称 CSF）には、プレップ（Preparatory：幼稚園相当）の段階から、10年生までの各段階において、生徒が学ぶべき内容が、８つの主要学習領域（Key Learning Area : KLA）にわたって記述されている。CSF は、カリキュラムの主な要素と各段階を修了した学習者が習得すべき能力の基準について詳細に記述し、各学校やコミュニティーがそれを明確に把握できるようになっている。これと平行して、各学校では、政府の政策や各学校のもつ優先事項・リソース・専門知識などを考慮に入れながら、独自の教授・学習プログラムを編成するための最善の方法を探る。

構成

CSF は、主要学習領域（KLA）、構成要素（Strands）、レベルから構成されている。

主要学習領域（KLA）

CSF は、８つの主要学習領域で構成されている。

- 芸術
- 英語　第二言語としての英語（ESL）を含む
- 保健体育（HPE）
- 英語以外の言語（Languages Other than English－LOTE）
- 数学
- 科学
- 社会と環境（SOSE）
- テクノロジー

構成要素（Strands）

各主要学習領域内では、大きな知的領域と技能とが構成要素（strands）として分類・配列されている。構成要素が教科別になっている主要学習領域もある。例：「芸術」では音楽と美術、「科学」では生物と物理、「社会と環境」では歴史と地理、のようになっている。また、英語、ESL、LOTE では、読む、書く、話す、聞くのように技能で分けられている。いくつかの主要学習領域では、構成要素の中の題材を分類するために小構成要素（substrands）を用いている。

レベル

各構成要素（strand）について、ＣＳＦでは11年間の修業年限中の学習者の達成度を６つの段階にわけている。６つの段階は、プレップから10年生までの学年に対し、およそ以下のように対応している。

- レベル１　プレップ終了
- レベル２　２年生終了
- レベル３　４年生終了
- レベル４　６年生終了
- レベル５　８年生終了
- レベル６　10年生終了

レベル６は、義務教育の終了段階から11・12年課程（VCE－Victorian Certificate of Education：ビクトリア中等教育修了証）に進級するための必要要件を学習する移行期間に備えるべくデザインされている。レベル６の基準に到達してしまった学習者を対象とした発展レベル達成目標（extension outcomes）も用意してある。

カリキュラムと基準

各主要学習領域では、枠組み（framework）はカリキュラムの重点事項（curriculum focus statement）と学習者到達度基準（standards for student achievement）という、２つの部分から構成されている。

カリキュラムの重点事項

カリキュラムの重点事項は、各レベルの構成要素（strands）ごとに記されている。そこには、主な必須学習内容が概説されているとともに、学習コースを編成する際に配慮されるべき諸事情が述べられている。このような記述はシラバスを構成するものではなく、特定の教授法や実際の学習コースにおける細部をあらかじめ指定しようとするものでもない。教師は、生徒の個別のニーズを考慮に入れた上で、様々な方法によってコースデザインを行い、実施する。

学習者到達度基準

枠組みのもう１つの部分は、一連の基準である。コミュニティーは、学校が生徒全員の高水準の成績達成を目指すことを期待し、また生徒の習得した能力に関する分かりやすい情報を求めている。学習者到達度基準は、教育者、生徒、親、政策立案者が教育に関するよりよい決定を下すための目安となるものである必要がある。ビクトリア州においては、CSF こそが基準による評価（standard

based assesment）実施の拠りどころとなるものである。

英語、数学、科学のCSF基準は、教育測定の専門家によってすでに有効性が確認されており、オーストラリア国内外の教育基準と比べても遜色のないものである。CSFはオーストラリアの識字・計算力の国家基準とも一貫性を保っている。

CSF基準は、相互に関連性をもつ、２つの要素から成り立っている。

- 学習達成目標（Learning outcomes）
- 指標（Indicators）

学習達成目標（Learning outcomes）

それぞれの構成要素について、学習達成目標（Learning outcomes）が示されている。これは、「この段階で学んだ結果として、生徒はどんな知識を得て、どんなことができるようになるのか」という問いに対する答えである。

学習達成目標は、

- カリキュラムの幅の広さ、深さ、複雑さを反映している
- 様々な評価技法を用いて測定できるように記述されている

学習達成目標のコード番号は、ウェブ上のCSFでは、すばやくアクセスでき、関連資料へも容易にリンクできるためのものである。

指標（Indicators）

それぞれの学習達成目標（Learning outcome）は、指標によって記述される。この指標は､「生徒が学習目標を達成したことをどのようにして判断するのか」という問いに対する答えである。教師は、要求されている水準で学習目標が達成されたかどうかを評価する際に、そのよりどころとして指標を用いる。

指標は、狭義の限定された方法で完了されるような特定のタスクを意図しているわけではない。学習者は、さまざまな学習活動やタスクに取り組むが、活動の幅が指標によってあらかじめ定められていたり限定されているわけではない。また、指標は、教師がどのように評価するかを左右するものでもない。例：中心となる考えや概念を説明するという指標の場合、小作文、プレゼンテーション、テストでの成績、レポートなどの場が与えられる。

生徒の提出物の例（注釈付き）

CSFの学習達成目標と指標に加えて、生徒の提出物の例（注釈付き）も参考に供されることになっている。これは、「この基準での生徒の提出物はどんなものになるのか」という問いに対する答えとなる。これらの例では、当該の基準における学習達成目標（Learning outcomes）の到達度が示される。しかし、

生徒が示しうるあらゆる成果例や、そのレベルでの学習達成目標をすべて達成しているという例を示しているわけではない。教育委員会では、今後時間をかけて提出物の例を充実させていく予定である。

「枠組み」の使用にあたって

CSF は枠組み／フレームワークであって、特定のプログラムを作成・配布したり、教授法を指定したり、学習領域への配当時間を定めたり、評価の材料や方法を指定するような詳細なシラバスや青写真ではない。そのような項目については、教員の配置、備品や他のリソースをはじめとするプログラム実施上の諸問題に関する決定事項も含めて、学校がある地域社会のニーズや優先事項、リソースなどの見地から、それぞれの学校によって決定されるべきものである。

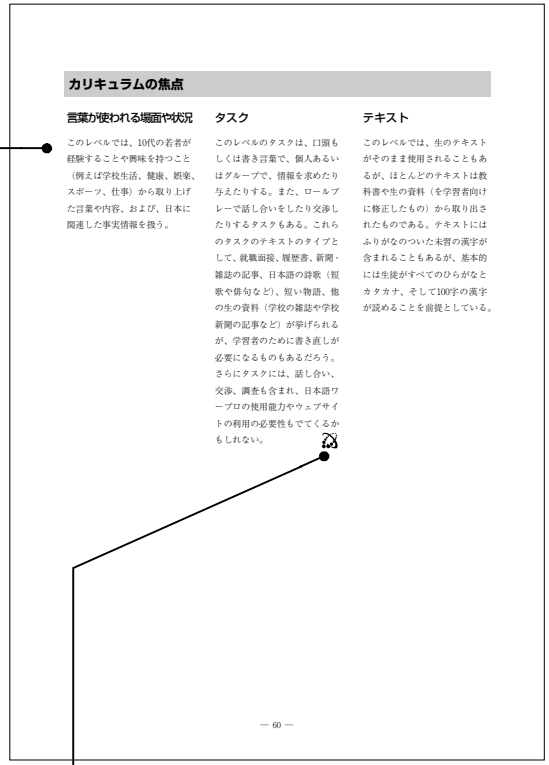
CSF は、各学校においてプログラムを開発し実施する上でのサポート機能を果たすものである。そのために、（カリキュラムを）教授・学習する際の重点を明確化するとともに、学習者の到達すべき基準を明示している。実際のプログラムは、各学校において決定されるものである。この関係は、7 ページの図に示されている。

アイコン

情報およびコミュニケーション・テクノロジー、公民や市民権、環境教育に関連がある事項には、それぞれ次のようなアイコンが参照のために示されている。

「枠組み」の使用に当たって

カリキュラム



カリキュラムの焦点

言葉が使われる場面や状況	タスク	テキスト
このレベルでは、10代の若者が経験することや興味を持つこと（例えば学校生活、健康、娯楽、スポーツ、仕事）から取り上げた言葉や内容、および、日本に関連した事実情報を扱う。	このレベルのタスクは、口頭もしくは書き言葉で、個人あるいはグループで、情報を求めたり与えたりする。また、ロールプレーで話し合いをしたり交渉したりするタスクもある。これらのタスクのテキストのタイプとして、就職面接、履歴書、新聞・雑誌の記事、日本語の詩歌（短歌や俳句など）、短い物語、他の生の資料（学校の雑誌や学校新聞の記事など）が挙げられるが、学習者のために書き直しが必要になるものもあるだろう。さらにタスクには、話し合い、交渉、調査も含まれ、日本語ワープロの使用能力やウェブサイトの利用の必要性もでてくるかもしれない。	このレベルでは、生のテキストがそのまま使用されることもあるが、ほとんどのテキストは教科書や生の資料（を学習者向けに修正したもの）から取り出されたものである。テキストにはふりがなのついた未習の漢字が含まれることもあるが、基本的には生徒がすべてのひらがなとカタカナ、そして100字の漢字が読めることを前提としている。

— 60 —

カリキュラムのねらい

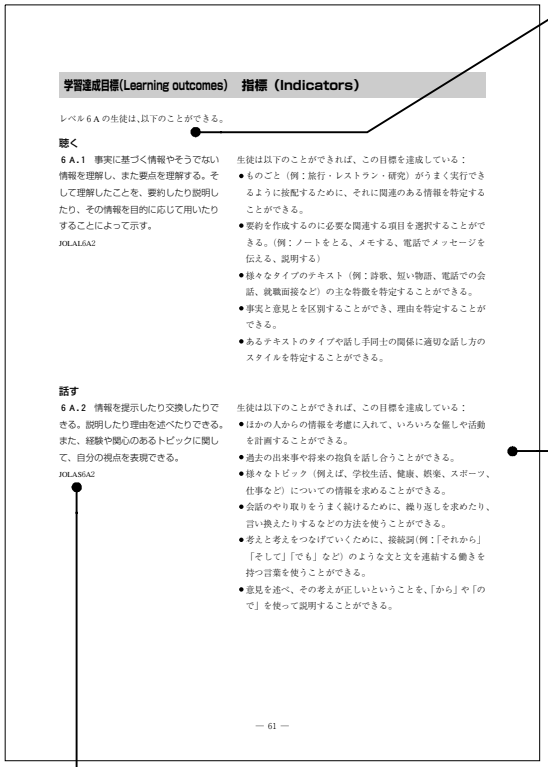
８つの主要学習領域における教授・学習上の主な内容、目的、目標

アイコン

以下の点への参照を示す
・情報およびコミュニケーション・テクノロジー
・公民や市民権
・環境教育

学校は、総合的な目標に沿うかたちで、リソース（時間・教材・設備・人的資源）**を使用し、実際のプログラム**（授業・アクティビティー・タスク）**を提供する**

基　準



学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

レベル６Ａの生徒は､以下のことができる。

聴く

６Ａ.１　事実に基づく情報やそうでない情報を理解し、また要点を理解する。そして理解したことを、要約したり説明したり、その情報を目的に応じて用いたりすることによって示す。
JOLA1.6A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：
- ものごと（例：旅行・レストラン・研究）がうまく実行できるように按配するために、それに関連のある情報を特定することができる。
- 要約を作成するのに必要な関連する項目を選択することができる。（例：ノートをとる、メモする、電話でメッセージを伝える、説明する）
- 様々なタイプのテキスト（例：詩歌、短い物語、電話での会話、就職面接など）の主な特徴を特定することができる。
- 事実と意見とを区別することができ、理由を特定することができる。
- あるテキストのタイプや話し手同士の関係に適切な話し方のスタイルを特定することができる。

話す

６Ａ.２　情報を提示したり交換したりできる。説明したり理由を述べたりできる。また、経験や関心のあるトピックに関して、自分の視点を表現できる。
JOLAS6A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：
- ほかの人からの情報を考慮に入れて、いろいろな催しや活動を計画することができる。
- 過去の出来事や将来の抱負を話し合うことができる。
- 様々なトピック（例えば、学校生活、健康、娯楽、スポーツ、仕事など）についての情報を求めることができる。
- 会話のやり取りをうまく続けるために、繰り返しを求めたり、言い換えたりするなどの方法を使うことができる。
- 考えと考えをつなげていくために、接続詞(例：「それから」「そして」「でも」など）のような文と文を連結する働きを持つ言葉を使うことができる。
- 意見を述べ、その考えが正しいということを、「から」や「ので」を使って説明することができる。

— 61 —

学習達成目標(Learning outcomes)

このレベルで、生徒が得るべき知識と、できるようになるべきこと

様々な方法で評価できるような学習者の運用能力の記述

指　標

生徒の活動において着目すべき点

期待すべき達成基準へのガイド

コード

各学習達成目標(Learning outcomes)を区別するためのコード番号

＊この「『枠組み』の使用に当たって」の例は、英文版とは異なります。

英語以外の言語（Languages Other Than English : LOTE）

LOTE 学習の理由

現代の世界において活躍するためには、とりわけてグローバル化の高まりとオーストラリア国内の文化の多様化という状況のもとでは、英語以外の言語の使用能力と異文化間を移動する能力とが非常に重要である。

言語学習によって生徒が得られるもの：

- その言語を用いてその言語を話す他者とコミュニケイトする
- 言語がシステムとしてどのように働くのか、また比較を通して各言語（英語を含む）がどのような構造をもちどのように機能するのかを理解する
- その言語に生命と意味を与えるもととなる文化を直接理解する
- 自らの文化について考察し、それを他の言語が使用されている国、社会、またはコミュニティーの文化と比較する
- 生徒が持つ一般的な知識を増進する
- 就職機会の向上

目標（Goals）

LOTE 学習の目標（goals）：

コミュニケーション

生徒は様々な目的のために、そして様々な場面で目標言語を用いてコミュニケーションすることを学ぶ：生徒は人々と出会う機会を広げることができ、また、目標言語によって話されたり書かれたりしている知識、考え、情報などに直接アクセスできるようになる。

社会文化理解

言語を効果的に使用するための学習を通じて、生徒はその言語が使用されている文化の背景を理解するようになり、そして、その社会が共有する意味、価値、習慣がその言語によって具現化されていることを理解するようになる。例：生徒は、事情／文脈に応じて話者がその使用する言葉を変えることや、コミュニケーションにおいて身振り手振りのような諸々の要素が果たす重要な役割などを学ぶ。また、生徒は母語・母文化と学習目標言語・文化との比較により、世の中を見る多角的な視点が存在することを学習する。

言語意識

言語の働き（言語の構造、役割、効果）について理解を深め、それを他言語（英語を含む）にも応用する。

一般知識

言語の学習を通して、生徒は、他の主要学習領域から出てくるさまざまな概念について知識を得たり、そのような知識を相互に関連付けたりする。

LOTE CSF においては、上記の目標事項は言語使用と目標達成基準の中に統合されている。

主要学習領域（KLA）の構成

言語とプログラムのための特別の基準

言語という１つの学習分野の中にはすべての言語が含まれる。この考えについては、前述した「LOTE 学習の理由付け」「目標」、ここで述べている「構成」、そして後述する言語学習進度を規定するためのもろもろの記述のなかに反映されており、このことは主要学習領域中のすべての言語に共通する。

このように「枠組み」は各言語共通ではあるが、明確な達成が望まれる基準を教師に提供するために、LOTE KLA は各言語とプログラムの特異性にも配慮するようデザインされている。

日本語用別冊（Japanese Supplement）

この別冊が扱う言語プログラムは、第二言語としての日本語プログラムである。

パスウェイ（Pathways）

LOTE KLA は LOTE 学習の開始学年が生徒によって異なる事情にかんがみて、２つのパスウェイを用意している。大多数の生徒は小学校の入学と共に LOTE 学習を開始するが、その一方で、LOTE 学習の開始時期が遅い生徒がいるのも事実である。小学校で学習したのと同じ言語を中等教育レベルで継続して勉強する生徒がいる学校もあるし、また、７年生で別の言語を学習し始める生徒がいる学校もある。

この２つのパスウェイは、ビクトリア州の学校で実施される言語学習における主な方法を代表している。それら２つのパスウェイとは：

- パスウェイ１：プレップから LOTE を始めて、10年生まで同じ言語を学習する生徒を対象とする。また、このパスウェイはプレップから開始して、６年生まで同じ言語を学習する生徒も対象とする。

- パスウェイ２：７年生から LOTE 学習を始める生徒を対象とする。

パスウェイ１（プレップより LOTE 学習を開始する生徒を対象）は学習レベルを１～６と指定している。一方、パスウェイ２（７学年目から LOTE 学習を開始する生徒を対象）は４A～６A と指定している。

これら２つのパスウェイにおける学習レベルの組み合わせと関係する学習基準はそれぞれ全く異なっている。これは、生徒のそれまでの学習時間に違いがあるために、それぞれのパスウェイの学習者の到達する内容とレベルが同じものにはならないという事実を反映したものである。

学校によっては、生徒個人、または特定のグループにより、言語学習を始める時期に違いがあることがある。学校は違った方法で LOTE 学習の機会を提供してもよい。このような場合は、例：集中授業の時間数の増やすといったように、最終的にどちらかのパスウェイに合致するようにプログラムをデザインすることもできるであろう。

小学校入学初年度から10学年まで通して行う LOTE 学習の体系的な導入は比較的近年において発達してきたものである。既存のプログラムから集められた実証例をもととしたレベルと学年の関係は以下のとおりである。

パスウェイ1

レベル		学年度
6 発展レベル	……	10学年終了まで
6	……	9 学年終了まで
5	……	8 学年終了まで
4	……	6 学年終了まで
3	……	4 学年終了まで
2	……	2 学年終了まで
1	……	プレップ終了まで

パスウェイ2

レベル		学年度
6 A/6 A発展レベル	……	10学年終了まで
5 A	……	9 学年終了まで
4 A	……	7 学年終了まで

CSF は、上記の構成が継続的にモニターされる必要があり、また各学校で長期的にプレップから10年生までのプログラムが実施されるにしたがって入手可能となるより多くの実質的な実証データ情報をもとにして改訂される必要があることを認識している。

構成要素（Strands）

学習達成目標（Learning outcomes）と指標（Indicators）は、目標言語でのコミュニケーションに密接に関わる以下の 4 つの構成要素に振り分けられる。

- 聴解
- 発話
- 読解
- 表記

レベルについての記述

レベルについての記述では、各のレベルですべての構成要素を通じて期待される基準をまとめている。各々の解説は、(a)言語使用の幅広い文脈（テーマ、トピック、役割、場面設定）、(b)適切なテキスト（訳注：本文、発話など）とタスク、(c)生徒が言語を使用する際に期待される言語の（訳注：諸知識や諸技能の総体としての）複雑性、(d)言語を学習し言語を使用する際のいくつかの過程とスキル、に対するコメントを含み、さらに、言語がシステムとしてどのよ

うに機能するか、また文化に対する理解についてのコメントも含む。

カリキュラムの焦点についての記述

各々のレベルについてカリキュラムの焦点が記述されている。これらの記述は、教授法や実際のコースの詳細を記述したり規定したりするためのものではない。その代わりに、それぞれのレベルに適した文脈やタスク、テキスト（訳注：本文、発話など）の範囲を規定することに焦点を当てている。

学習達成目標（Learning outcomes）と指標（Indicators）

学習達成目標とは、生徒が学習の結果として、何ができることが期待されるのかを記述するものである。各レベルの４つの構成要素それぞれに一連の学習達成目標と指標がある。

特記事項

＋

VCE へ向けてのパスウェイ

レベル６とレベル６Ａは VCE レベルでさらに学習を進めるための準備として十分な内容を提供している。

しかし、レベル６とレベル６Ａに含まれる基準の中では、強調箇所や焦点を当てた箇所に違いがある。レベル６の基準は、生徒が小学校と中等教育課程を通して学習することによって習得すべき知識と技能（より多数の語彙や文法項目など）という、より範囲の広い基礎知識を反映するものである。

レベル６とレベル６Ａの学習者到達度基準に記述されたことがらは、第二言語のプログラムについてのものである。ここにいう第二言語のプログラムとは、その言語についての知識をすべてオーストラリアの学校やそれに類似した学校教育環境において学習した生徒のためにデザインされたプログラムである。VCE の学習で第一言語と第二言語の両方がある言語（現在は中国語とインドネシア語、2001年度から韓国語と日本語も加わる）においては、レベル６とレベル６Ａは VCE レベルの第二言語の学習をするのに適した準備学習とみなされる。

発展レベル学習達成目標（Extension learning outcomes）と指標（Indicators）

レベル６とレベル６Ａには発展レベル学習達成目標（Extension learning outcomes）・指標（indicators）が用意されている。これは、VCE レベルでの語学学習の準備のためにより質の高い学習を望む生徒を対象にデザインされたプログラムにおいて求められる基準を考慮に入れたものである。

パスウェイ１を履修し、９年生もしくはそれより下の学年でレベル６の達成基準に到達した生徒にとって、または、例えば成長が他の生徒より早かったりよく勉強して自信があるといったような理由がある場合には、発展レベル学習達成目標・指標は VCE 学習に直接進むことに替わる最も適切な選択肢となりうる。

就職のための教育と職業訓練

本書のレベル６とレベル６Ａの「学習達成目標（learning outcomes）」「指標（indicators）」「カリキュラムの焦点」の各項目中に記述されているタスク、テキストや、運用能力の特徴は“National TAFE Language Course Stage One”のモジュール２Ａが求めるカリキュラムと達成目標（outcomes）に適合するものである。

職業訓練を提供する機関として登録している学校、もしくは職業訓練提供機関と提携している学校では、LOTE CSF のレベル６とレベル６Ａの内容の範囲内で、上記モジュール２Ａの達成目標（outcomes）を部分的に含んだ第二言語学習プログラムをデザインすることが可能である。その例としては、上記モジュール２Ａの達成目標（outcomes）１、２、４、９、10、11、15と、CSF 6Aの達成目標（outcomes）とが合致するように作られたタスクの概要を67ページに掲げてある。７項目のモジュール２Ａの達成目標（outcomes）を修了した生徒は、登録訓練機関から基準達成認定証を受給することができよう。

VCE のユニット１と２の達成目標（outcomes）と評価タスクも、上記モジュール２Ａの達成目標（outcomes）を組み込んで学習できるようにデザインされている。VCE レベルで言語の学習を継続する生徒は、このレベルでモジュール２Ａの達成目標のうちまだ学習していない項目に取り組むことができる。これについてどのようにすればよいかの説明は67ページのタスクの概要の例に記されている。

改訂版“VCE Study Design”のユニット３と４のコースワークタスク（学校での試用・査定済み）は、上記モジュール２Bの達成目標（outcomes）を組み込んで学習することができ、登録訓練機関から認定証（Certificate Ⅲ in Applied Languages）がもらえる。詳しくは該当するVCEスタディデザイン（改訂版）を参照のこと。

＊*National TAFE Language Course: Stage One: Generic Curriculum, 1994* はAustralian Training Products（電話：＋61-(0)3-9630-9836）より入手できる。

学習達成目標（learning outcomes）の概要

パスウェイ１（プレップから学習開始）

レベル	聴　　く	話　　す	読　　む	書　　く
1	**1.1**　単語、語句や教室内でよく使われる指示を理解する。質問に対して動作や一単語の答で応答できる。（例:「いぬ［ですか］？」「はい。/いいえ。」「これはなに［なんですか］？」「いぬ。」）	**1.2**　体を使ったアクティビティー（例：ゲーム・歌）や決まった言い方（例：挨拶）で単語や語句を使う。質問に、「はい」「いいえ」またはその他の一単語で応答できる。	**1.3**　ラベルや短い説明文に書かれている単語が理解できる。個々のひらがなが理解できる。	**1.4**　個々のひらがなや身近な単語を、なぞって書いたり手本を見て書き写したりできる。
2	**2.1**　「なにいろですか？」「いくつですか？」などの簡単な情報に関する質問に口頭で、もしくは動作、描画、身振りで応答することによって、情報を理解していることを示す。	**2.2**　2、3語で構成される質問をし、事実に基づいて、もしくは叙述的に2、3語の答で応答することができる。（例：「ペンです。」「すきです。」）	**2.3**　46字の基本ひらがな（注＊）を読みわけることができ、また実物や絵などの助けがあれば単語として読むことができる。用途により異なる表記（ひらがな、カタカナ、漢字）があることを理解している。	**2.4**　いくつかのひらがなについては正しい書き順で、10～15語の身近な単語が書ける。
3	**3.1**　3、4の文または発話に含まれる、簡単な事実に基づく情報を理解し、それを表の空欄を埋めるといったタスクを完成させることによって示すことができる。	**3.2**　3、4の発話からなるやり取りの中で個人の情報を交換したり、簡単な口頭発表（例：自己紹介）をすることができる。	**3.3**　ひらがなで書かれた4、5文の説明文や短い挿絵つきの物語を読んで、具体的な情報を特定することができる。簡単な漢字（例：一から十、日、本、人）を読むことができ、カタカナの使い方を理解している。	**3.4**　46字の基本ひらがなをそれぞれ書くことができ、漢数字などの簡単な漢字が書ける。正しい句読法で2、3文の文章（例：簡単なスピーチや自己紹介）が書ける。
4	**4.1**　人と人とのやり取りや、順を追って話された一連の出来事を理解し、聞きなれた6～8語からなる口頭の指示に従うことができる。	**4.2**　場所、出来事、自分と人のことについて情報を求めたり、提供したりできる。感情を表現できる。	**4.3**　およそ10の文からなるテキストに含まれる重要な情報項目（例：した事、出来事、経験など）を特定することができ、その情報を、異なる形式（例：漫画を描いたり、電子メールで返事を書く）で使うことができる。よく知っているカタカナ語（例：スポーツ）を読むことができ、勉強しているトピックに関する漢字が、少なくとも20字は読める。	**4.4**　体験についての記述（例：私の週末）、行動や出来事の記録（例：短い物語、漫画、図表など）などについての4～8文で構成される文章を、すべてのひらがなを使い正しいつづり方で（例：長母音、「ゃ、ゅ、ょ、っ」）、場合によっては手本を見て書き写したカタカナやよく知っている漢字も使って、書くことができる。

レベル	聴　　く	話　　す	読　　む	書　　く
5	**5.1**　発話によるテキストや口頭のディスカッション・発表などの中で述べられた事実・考え・順序・理由を理解する。そして、その情報を利用して段取りを決めたり判断したりすることによって、理解したことを示す。	**5.2**　話のやり取り（例：対話、調査、インタビュー）や、一定時間続ける話（例：口頭発表）において、事実に基づく情報、意見、計画を提示したり交換したりすることができる。	**5.3**　テキストを読んで、そこに述べられている主な考え・流れ・理由（例：「だから」）を理解し、ひらがな・カタカナ・漢字（少なくとも60字）の知識を使って、日本語あるいは英語での質問に答え、または、表・図・図解などを完成させる。	**5.4**　少なくとも40字の漢字が書ける。ひらがな・カタカナ・漢字を使って、詳細な描写、簡単な空想作品やスピーチ原稿といった、個人の情報や事実に基づいた情報を伝達する200字程度の文章を書くことができる。
6	**6.1**　客観的な事実に基づく情報や、事実に基づかない情報(要旨・意見・考えなどを含む）を理解し、その情報を使用して行動や判断の具体的な根拠を提供することにより、その情報を理解したことを示す。	**6.2**　経験や興味のあるトピックに関する情報を提示したり交換したり、考えを明確にしたり、説明したり、理由や意見を述べたりすることができる。	**6.3**　少なくとも90字の漢字を読むことができる。テキストの中の事実や考えを特定したり説明したりすることによって、あるいは理解した情報をもとのテキストとは異なるスタイルに変換して伝えることによって、テキストを理解したことを示す。	**6.4**　ひらがな・カタカナ・漢字（少なくとも70字）を用いて350字程度の、情報、考え、意見・理由や説明を伝達する文章を書くことができる。その文章には、複文や重文、様々な種類のテキストタイプを用いる。
6 発展 レベル	**6.5　発展レベル**　与えられた目的を遂行するために、客観的な事実に基づく情報や、事実に基づかない情報（事実かどうかがはっきり分かるように示されている場合も、そうでない場合もある）を理解し、それについての他の人からの情報を要約したり選んだり使ったりすることによって、元の情報を正確に理解したことを示す。	**6.6　発展レベル**　証拠や理由によって裏づけされた意見を提示したり、段取りを決めたり、交渉して合意に達することができる。	**6.7　発展レベル**　少なくとも150字の漢字を読むことができる。あるテキストの中の事実・意見・考えを特定し、比較し、説明することができる。その情報をもとのテキストとは異なるスタイルに変換して伝えることができる。	**6.8　発展レベル**　少なくとも、110字の漢字が書ける。500字程度で、情報・考え・主張を伝達する文章を書くことができる。また、簡単な筋の創造的な文章を書くことができる。

＊監訳者注：「基本ひらがな」とは、濁音・撥音・拗音を含まないひらがなのこと。以下同じ。

パスウェイ１

レベル１

レベル１において、生徒は家庭や教室といった身近で親しみのある環境で、聞き、見、触れるものについての日本語を使ったり、それらの日本語に対して応答したりする。

生徒にとって焦点となるのは、印刷物や身の回りにある目に見えるものを使った、口頭による反応である。聴くことと、することが中心であり、生徒は日本語を口まねし、音で遊んだり、写真や実物や動作に関連付けて単語や単純な語句を繰り返したり、歌を歌ったり、身振りをしたり、話のうちのキーワードとなる空白部分を口頭で補ったり、ある文脈をもって語られる言葉に反応したりする。

子ども達のために、または子ども達の間で使われる言葉は、プレーンフォーム（plain form）が中心である。小学校低学年の生徒には、「です／ます調」のスタイルを使うことがあってもいいが、プレーンフォームを使った、くだけた（casual）スタイルを教えるほうが自然である。

生徒は、「みなさん、おはよう」「せんせい、おはようございます」といった簡単な挨拶をし、「たって」や、「たってください、みんなでうたいましょう」などといった教室での指示、あるいはゲームやおりがみなどのアクティビティーの説明に応答する。生徒は、ジェスチャーや身振りで、あるいは、「はい（うん）」、「いいえ（ううん）」、または「いぬ」、「とり」「あか」などといった物の名前で、先生の質問を理解していることを示す。生徒は、英語の音に似ている外来語（例：ケーキ、アイスクリーム）のいくつかも聞いて分かる。

生徒は、ジェスチャー、顔の表情のようなパラ言語的な手がかりを理解するようになり、そして、共に学習することによって意味を識別することを学ぶ。

生徒は、口真似をしたり、日本の歌を歌ったり、スナップ（snap）などのゲームをしたり、簡単なロールプレーをしながら日本語を話すようになる。生徒は、挨拶をする場合には一緒にお辞儀をするといった、日本語に付随する、いくつかのノン・バーバルな行動様式を知り、それらを使う。

生徒は、自分達の名前の後には「さん」、「くん」、「ちゃん」がつき、教師の場合には「せんせい」がつく、といったよく使われる人を呼ぶときの言い方を理解する。また、物の名前と「一～十」までの数を理解する。

生徒は、日本語が英語とは異なる表記であることに気付く。また、個々のひらがなを理解し、粘土で型どったり、なぞったりするなど、さまざまな方法で、その形を再現する。

社会文化的知識の領域では、CD-ROM、「ももたろう」や「ちびまるこちゃん」などの物語やビデオを通して、また、子どもの日に鯉のぼりを作ったりなどといった、日本の行事に関連した活動に参加しながら、日本人や日本の場所に関する伝統的および現代的なイメージを得る。

カリキュラムの焦点

言葉が使われる場面や状況

レベル１では、身近で親しみのある家庭、教室や学校といった身近な環境から取り上げた言語と内容を扱う。

タスク

このレベルでは、タスクは動作に関連したもので、よく使われる決まった言い方に基づいたものを実施する。フラッシュカード、先生によるジェスチャー、ポスターなどのような視覚的なサポートがあるとよい。生徒達はアクティビティーやゲームや歌（例：当てっこゲームや聴解ゲーム、数えるゲーム、身振りをつけて歌を歌ったりなど）の中で、キーワードや短い語句をまねたり、繰り返したりする。読むタスクには、フラッシュカード、ラベル、表、キャプションを読んだり、または知っている言葉を指し示すことなどがある。書くタスクには、単語を切りぬいてワークシートに貼り付けたり、簡単な単語に１、２の知っているひらがなを加えて完成させたり、簡単なひらがなをなぞったり書き写したりすることなどがある。

テキスト

このレベルのテキストは短くてイラストが多く描かれ、生徒の身近な環境で探せる言葉からなる。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

レベル１の生徒は、以下のことができる。

聴く

1.1　単語、語句や教室内でよく使われる指示を理解する。質問に対して動作や一単語の答で応答できる。（例：「これはなに/なんですか？」「いぬ。」「いぬですか？」「はい。/いいえ。」）

LOJAL102

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 単語や語句の音を聞いて分かり、まねることができる。
- 適切な動作を使って、単純な指示に反応できる。
- 名指しされたものを指示することができる。

話す

1.2　体を使ったアクティビティー(例：ゲームや歌）や決まった言い方（例：挨拶）で単語や語句を使う。質問に、「はい」「いいえ」またはその他の一単語で応答できる。

LOJAS102

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 教師や友人に挨拶したりお礼を言ったりできる。
- 一語か語句で質問に答える。
- 自分に関する情報を一問一答の形で提供できる。
  （例： 教師：おなまえは？　生徒：～です。）
- 歌の内容に合った動作を伴って歌うことができる。

読む

1.3　ラベルや短い説明文に書かれている単語が理解できる。個々のひらがなが理解できる。

LOJAR102

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 個々のひらがなを見て分かり、読むことができる。
- 身近な単語を理解し、物や画像と一致させることができる。

書く

1.4　個々のひらがなや身近な単語を、なぞって書いたり、手本を見て書き写したりできる。

LOJAW102

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 書き順を意識しながら、ひらがなをなぞることができる。
- 絵にその物の名詞を書き込むために簡単な単語を書き写すことができる。

レベル２

レベル２では、生徒は、自分、家、家族、動物、教室といった身近な環境に関連した単純でわかりやすい場面やアクティビティーの中で日本語を学習して使用する。

焦点となるのは、まだ、簡単な教室でのインターアクションであるが、より多くのバリエーションが加わっている。生徒は、話し言葉、書き言葉、電子テキストにおける個々の情報（例：数、身体の部分、色やサイズなどの数の限られた叙述的な単語）を、目に見えるものの助けを借りて理解する。生徒は、言葉を使わずに動作や身振りで応答することによって、「かきましょう」、「てをあげてください」、「おってください」などの指示された言葉を理解したことを示す。

生徒は、「これはなにいろ［ですか］？」、「いくつ［ですか］？」、「すき［ですか］？」など、簡単な短い質問に、「あかです。」？/「はい、あかです。」、「いいえ、あおです。」というように２、３語で事実に基づいて、あるいは、叙述的に応答することができる。または、適切な単語で空欄を埋めたり、CD-ROMの音声画像ソフトを操作して、応答することもできる。

生徒は、「おばさん/おばあさん」、「おじさん／おじいさん」などのような長母音と短母音の区別ができ、「でんしゃ」、「じゅう」、「きゅうしゅう」、「とうきょう」、「みっつ」のように小さい「ゃ、ゅ、ょ、っ」などを伴う単語を発音することができる。

このレベルで使われる文型は、主に、「主語＋名詞＋です」と「主語＋形容詞＋です」である。生徒は、２、３の助詞の特定の機能（例：疑問を示す「か」、トピックを示す「は」、終助詞の「か」、動詞の直接目的を表す「を」）に気づく。彼らは、文の最後に「か」を加えることで、疑問文を形成することができる。

生徒は、日本語にひらがな、カタカナ、漢字という、３種類の表記法があり、それぞれのグループは、特定の目的のために使われることを学ぶ。生徒は、46字の基本ひらがなを読みわけ、または、ひと続きのひらがなからなる単語を読むことができる。そして、正しい書き順で、10～15語のよく知っている単語をひらがなで書くことができる。

生徒は、オーストラリアと日本は、現代の衣服、食べ物、生活スタイルなど

で、お互いに類似する面も多くあるが、異なるところもあることを理解する。例えば、年長の兄弟は、「おにいさん」、「おねえさん」、年下の兄弟には、「おとうと」や「いもうと」というように異なった言葉があり、文の構造も、英語と異なっていることを学ぶ。さらに、「私」を示す時に、鼻を指で指すなどといったいくつかのノンバーバルな行動や、日本では、家や、学校の建物に入る際、靴を脱ぐといったことに気づく。

カリキュラムの焦点

言葉が使われる場面や状況

レベル２では、学習者自身とその自宅や学校に関係のある言葉とそれにともうなう内容を扱い、さらに、簡単な算数などといった他の主要学習領域と、簡単な想像上の作り話に必要な言葉や内容も扱う。

タスク

このレベルのタスクは、短く、範囲と時間が限定され、しかも学習者が経験できる身近なものである。タスクは、先生の指示に応えるといったクラス内の決まった手順や、挨拶、ゲーム、ロールプレー、身振りなどを含む。生徒は、指し示したり、口頭でものの名前を言ったり、絵を描いたり、いくつかの絵の中から選んだりして、個々の情報を特定する。「らりるれろ」の発音練習や、「おじさん」、「おじいさん」などの長母音・短母音の相違、小さい「ゃ、ゅ、ょ、っ」を含む単語は、話すタスク/聴くタスクに組み入れられる。音読したり、CD-ROM を使ったオーディオビジュアルプログラムを操作したり、または、手本をなぞって書き直したりするタスクを通して、生徒は、46字の基本ひらがなを読み、10～15語の身近な単語が書けるようになる。

テキスト

このレベルのテキストは、短い文（３、４語）で構成されており、「主 語＋名 詞＋だ/で す」（例：「えみさんは日本人だ/です」)、や「主語＋形容詞＋だ/です」（例：「いぬはかわいいです」）のパターンである。これらの語句や語彙は、何度も繰り返して見せ、ふつうは目に見える絵や実物もいっしょに見せる。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

レベル２の生徒は、以下のことができる。

聴く

2.1　「なにいろですか？」「いくつですか？」などの簡単な情報に関する質問に口頭で、もしくは動作、描画、身振りで応答することによって、情報を理解していることを示す。

LOJAL202

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 単語や語句を正しく理解し、繰り返すことができる。
- 指示に従って与えられたタスクを完成することができる。
- リストや表にある単語や絵の中からキーワードを選んで特定できる。
- 聞かれた質問に口頭で答えることができる。
- 歌やゲームに身振りで反応できる。

話す

2.2　２、３語で構成される質問をし、事実に基づいて、もしくは叙述的に２、３語で応答することができる。
（例：「ペンです。」「すきです。」）

LOJAS202

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 口頭で２、３語を使って、事実に基づいて、もしくは叙述的に答える。
- 年齢、数、体の部分、色、好き・嫌いについての質問をすることができる。
- ２、３の発話からなる簡単なロールプレーができる。
- 時間と場面に応じて、適切な挨拶ができる。
- 自分について簡単に描写できる。

読む

2.3　46字の基本ひらがなを読みわけることができ、また実物や絵などの助けがあれば単語として読むことができる。用途により異なる表記（ひらがな、カタカナ、漢字）があることを理解している。

LOJAR202

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 個々の文字が指示されたり、フラッシュカードで見せられたとき、基本ひらがなを読み上げることができる。
- ひらがなで書かれた身近な語彙が読める。
- カタカナで書かれた自分の名前や単語がわかる。
- 絵と文を一致させることができる。

書く

2.4　いくつかのひらがなについては正しい書き順で、10～15の身近な単語が書ける。

LOJAW202

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 正しい書き順に従って、指で空にひらがなが書ける
- ひらがなで身近な語彙が書ける
- 絵を見て、そのものの名前が書ける。
- 空欄をひらがなで埋める問題を解くことができる。

レベル３

レベル３では、生徒は自分のこと、身近な環境、想像上のことなどに関して日本語を学習して使う。

聴くタスクでは、生徒は６～８の発話からなる短い対話あるいは３、４の文に含まれる簡単な事実に基づく情報を、例えば、アンケートや質問表に答えたり、あるいは口頭でもしくは言語のソフトウェアを使って答えたりすることによって、特定することができる。聴きとりのテキストには、です/ます調のフォーマルなスタイル、動詞のプレーンフォーム（plain form）を用いたスタイルの両方が含まれる。生徒はこの２つの発話スタイルの違いが分かるが、このレベルでは違いは文法としてではなく定型表現として紹介される。

生徒は、「どこにすんでいますか」、「すいえいをしますか」「いくつありますか」などと質問したり、それに答えたりすることで個人的な情報を交換することができる。彼らは適切な間投詞（例えば「そう」、「わあ」といったあいづちや「じゃあ」といった接続詞）や応答語句（例えば「すごい」や「ほんとう」）を使うことができる。特に名詞や「いきます」、「します」などの動詞に関しては語彙の幅も増えてくる。動詞の「て形」も授業で教えるので理解することはできるが、それを使って何かを言うことはできない。主に使われる構文は、「主語＋目的語＋動詞」と「主語＋名詞・形容詞＋だ/です」である。

生徒は、拗音や促音、濁音を含むすべてのひらがなを読み、「一～十、日、本、人」などの簡単な漢字を読むことができる。道具があれば日本の習字も習う。彼らは説明文や４、５文からなる挿絵つきの話を読むことができる。

生徒は個々の46のひらがなと漢字を正しい書き順で書くことができる。そしてひらがなのチャートを参照して３、４の短い文からなる簡単なスピーチや自己紹介文などを書くことができ、句読点も正しく使える。

CD-ROM のドキュメンタリーやアニメのビデオを使って生徒は基本的な日本の地理（例えば主要都市や気候）と日本人の伝統的と現代的との両方の日常生活の様子を学ぶ。また、日本の文化習慣もお祭りやそのほかの年中行事（例えば「おしょうがつ」、「ひなまつり」、「七五三」、「うんどうかい」）に沿って勉強する。

カリキュラムの焦点

言葉が使われる場面や状況

レベル３では、自分のこと（例えば家族、友人、スポーツ）、生徒の身近な環境、想像上のことなどを語るのに必要な言葉とそれにともうなう内容とを扱う。

タスク

このレベルのタスクは、聴解、発話、読解、作文などのをさまざまな要素を組み合わせながら、既知の言葉や構文を、新しい場面や状況に適合させていくものである。生徒は、口頭のあるいは書かれたテキストに対して、その情報の中から必要な項目（例えば個人の情報やスポーツ）を特定し、言葉を用いて、あるいは言葉を用いない方法（身振りなど）で応答する。口頭のアクティビティーには個人的なインターアクション（例：ロールプレー、スキット、ゲーム）が増えてくるが、生徒はそれを通して、あいづちや、「そう」、「わあ」、「すごい」、「ほんとう？」、といった間投詞や応答の言葉を適切に使うことができるようになる。生徒はひらがなと簡単な漢字（例：一～十）で書かれた短い文章を読む。習字を導入するのもよい。日本の地理や文化に関する基本的な知識も CD-ROM やアニメを使った活動に組み込んだり、あるいは「子供の日」や「七五三」、「うんどうかい」のような伝統的な行事に由来する特別な活動を行うことで、取り入れられる。

テキスト

このレベルのテキストは短く、よく知っている語彙と構文が使われる。聴解のスクリプトは３、４つの短い文で構成され、新しい単語も、挿絵や外来語（元の語源は英語）で音から意味が推測できるものならば多少含まれてもいい（例：スキー、スケートなどの外来語）。発話テキストには、くだけた（casual）スタイルと、「です/ます調」のスタイルの両方が使われる。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

レベル３の生徒は、以下のことができる。

聴く

3.1　３、４の文または発話に含まれる、簡単な事実に基づく情報を理解し、それを表の空欄を埋めるといったタスクを完成させることによって示すことができる。

LOJAL302

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 長母音、短母音の区別（例えば、おばさん/おばあさん、すき/スキー）ができる。
- 聞き取った単語と絵を一致させる、表の空欄を埋める、文の空欄にあてはまる単語を選ぶ、選択肢から選ぶというタスクを完成できる。
- 与えられた質問に口頭で答える。
- くだけた（casual）スタイルと中立的/フォーマルなスタイルのどちらの表現による指示にも従うことができる。

話す

3.2　３、４の発話からなるやり取りの中で個人の情報を交換したり、簡単な口頭発表（例：自己紹介）をしたりすることができる。

LOJAS302

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 正しい発音とイントネーションで簡単な口頭発表ができる。（例：自己紹介）
- 相手の人とそれぞれ３、４の発話のやり取りをする中で個人の情報を交換できる。
- 自分や家族のことに関して質問し、答えることができる。（例：「どこにすんでいますか」、「すいえいをしますか」、「～がすきですか」）
- １人あたり３、４回の発話のあるロールプレーができる。
- 自分や人に関する基本的で事実に基づく情報を提示することができる。（例：「～さんは～がすきです」、「～をします」）
- 会う時と別れる時に適切な形式で挨拶できる。
- 「そう？」、「わあ」「すごい」、「ほんとう？」といった応答の言葉が使える。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

読む

3.3　ひらがなで書かれた４、５文の説明文や短い挿絵つきの物語を読んで、具体的な情報を特定することができる。簡単な漢字(例：一から十や、日、本、人）を読むことができ、カタカナの使い方を理解している。

LOJAR302

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 既習の漢字を含む短いテキストを、正しい発音、イントネーション、区切り方で声に出して読むことができる。
- 質問に応じて必要な情報を探し出すことができる。
- 情報を選び、正しい順序に並べ替えることができる。（例：ごちゃまぜになった単語を並べ替えるタスク）
- 簡単な漢字を個別に、およびコンテクストに応じて理解することができる。(例：一～十、日、本、人）
- テキストとその意味することとを一致させることができる。（例えば文章と図、日本語と英語の一致や選択肢から正しい答えを選ぶなど）

書く

3.4　46字の基本ひらがなを、それぞれ書くことができ、漢数字などの簡単な漢字が書ける。正しい句読法で２、３文の文章（例：簡単なスピーチや自己紹介）が書ける。

LOJAW302

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 見本の文に手を加えて説明の文や簡単な話を書くことができる。(例：空欄を埋めるなど）
- 46のひらがなを正しい書き順と正しい字形で書く。
- 正しい語順で簡単な文章を書く。(例：「主語＋名詞＋だ/です」、「主語＋名詞＋動詞」）

レベル４

レベル４では、生徒は自分自身が経験することがらやより広い世界（他の主要学習領域や新聞雑誌などから取り上げたトピックを含む）の範囲内で日本語を学習し使う。

生徒は、目に見える絵やものなどの助けを借りて、あるいは借りずに、買い物などの場面におけるやり取りを理解し、６～８文の発話に含まれる一連の出来事を理解する。生徒は、いろいろな種類のタスクにおいて、口頭で答えたり書いて答えたりすることによって理解したことを示す。そのタスクには、得た情報を繰り返したり、リストから正解を選択したり、適切な言葉で空欄を埋めたり、などがある。また、「てをあらって、それからおべんとうをたべましょう」というような簡単な、行為の順序を示した指示に従うことができる。

生徒は、自分と人のことや場所と出来事に関して口頭でコミュニケーションをとり、「おもしろい」「さむい」などの形容詞を使って詳細な説明ができる。さらに、「どれ」「これ」「どっち」「こっち」などの代名詞を使って好みや選択を表現できる（例：「どれがいい［ですか］？」、「これがいい［です］」）。自分の日課や暇な時にすることが説明できる。生徒は感情が適切な形容詞と声のトーンで表現されることも理解する。

生徒は、助詞が意味を正しく伝えるために果たす重要な役割を理解する（例：「は」はトピック・マーカーで、「を」は直接目的語を意味し、「に」は特定の時を表し、「で」は移動手段を示す「by」にあたり、「か」は疑問を表す）。そして、動詞の終わりの「です/ます」の形は未来と現在双方の時制を表すことを学ぶ。

生徒は約10文で書かれた文章からキーポイントとその詳細を認識でき、その情報を異なったテキストタイプ（例：連続漫画）で表現するときに使うことができる。また、現在の出来事を過去にするなど、文章を文法的に操って４つ、５つのつながった文章を書くことができる。すべてのひらがなについて正しい使いかた（は、へ、を）で読み書きできて、約20の簡単な漢字が使える。また、「スポーツ」「テニス」「カー」「アイスクリーム」などのなじみのある言葉や自分の名前はカタカナ表記で読める。簡単な日本語ワープロの使い方も学ぶのもよい。

生徒は日本の大きさ、位置、地形などに関して基本的な知識があり、オーストラリアと比べることができる。彼らは姉妹校との文通や、インターネットからの情報にアクセスすることによって日本の家庭や学校生活について学ぶ。テーブルマナーなどの日常生活上の特有な行儀作法について知り、それらがなぜ大切なのかも理解する。

カリキュラムの焦点

言葉が使われる場面や状況

レベル４では、生徒の経験や生徒の属するコミュニティーの出来事（例：外出、学校や家庭での日課、行事）を語るのに必要な言葉とそれにともなう内容、そして新聞や雑誌、他の主要学習領域から取り上げた言葉や内容も扱う。

タスク

このレベルのタスクは、生徒自身の経験に関係があるものだけでなく、人目にふれる文字資料（標識、メニュー、お知らせ）やビデオ、CD-ROM、インターネットなどから情報を手に入れることも含まれる。生徒は生の、あるいは録音されたテキストを何度か繰り返し聞いて、そこから複数の情報を特定し、それを理解していることを、例えばテキストと図を正しく組み合わせる、などの方法を使って示す。

与えられる指示には、例えば折り紙を作るときのように、いくつかの順を追ったステップが含まれることもある。このレベルのタスクには、ひらがなと既習のカタカナ、漢字で書かれたテキストに含まれる特定の情報を使って、質問に答えたり、連続漫画の吹き出しや電子メールなどのように異なったテキストタイプの文章を書くというものもある。

話すタスクには短い口頭発表あるいはロールプレーがあり、書くタスクには決まった書き方にのっとった簡単な手紙の作成や日記の記入がある。

テキスト

このレベルのテキストは、学習者用に書き直されたものを用いるが、学校の時間割、標識、メニュー、値札、日本の少年少女雑誌の漫画など生の材料も多数使われる。発話テキストには６～８つの情報が含まれており、それは話し手が１人、２人、あるいはそれ以上の場合がある。連続した出来事や行為は、「それから」や「て形」で表現され、動詞は現在形か過去形を使う。このレベルのテキストに使われる形容詞の範囲は広くなっていて、感情表現も含む。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

レベル４の生徒は、以下のことができる。

聴く

4.1　人と人とのやりとりや、順を追って話された一連の出来事を理解する。聞きなれた６～８語からなる口頭での指示に従うことができる。

LOJAL402

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 聞いた情報から重要な事項（例：個人の詳細、出来事）を特定できる。
- 簡単な物語や劇の一連の流れを認識できる。
- 諸情報を正しく組み合わせることができる。
  （例：絵とそれの描写）
- 長く続くやり方の説明を聞いてそれに従うことができる。
  （例：折り紙の作り方）
- 声のトーンで話者の感情が分かる。

話す

4.2　場所、出来事、自分と人のことについて情報を求めたり、提供したりできる。感情を表現できる。

LOJAS402

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 時間や日付、値段などの重要な情報を得るために質問したり、そのような質問に答えることができる。
- 一連の出来事を記述するために文章をつなげることができる。
  （例：「八じにごはんをたべました。それから、がっこうにいきました。」）
- 手本に修正を加えて、ロールプレーや口頭発表を行うことができる。
- 形容詞を使って情報を拡張することができる。
- 声のトーンで感情を伝えることができる。
- お辞儀などの適切なジェスチャーを使うことができる。
- 「どれ」「これ」「どっち」「あっち」「など」の代名詞を使って選択や好みを表現することができる。
  （例：「どれがいい［ですか］？」「これがいい［です］」）

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

読む

4.3　およそ10の文からなるテキストに含まれる重要な情報項目（例：アクティビティー、出来事、経験など）を特定することができ、その情報を、異なる形式（例：漫画を描いたり、電子メールで返事を書く）で使うことができる。よく知っているカタカナ語（例：スポーツ）を読むことができ、勉強しているトピックに関する漢字が、少なくとも20字は書ける。

LOJAR402

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 音読または黙読で、単語や語句の区切りが分かる。
- ひらがなとその表記法の知識を使って、新しい単語や語句を読むことができる。
- 事実に基づくテキストの中からキーポイントを特定することができる。
- 簡単な、書かれた指示に従うことができる。
  （例：「日本語でこたえをかきます。」）
- カタカナで書かれた簡単な外来語を理解する
  （例：スポーツ、カー、テニス、アイスクリーム）

書く

4.4　体験についての記述（例：私の週末）、行動や出来事の記録（例：短い物語、漫画、図表など）などについての４～８文で構成される文章を、すべてのひらがなを使い正しいつづり方で（例：長母音、「ゃ、ゅ、ょ、っ」）、場合によっては手本を見て書き写したカタカナやよく知っている漢字も使って、書くことができる。

LOJAW402

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 小さな「ゃ、ゅ、ょ、っ」と長母音（おとうさん、おねえさん、おおきい）を正しく使って書ける。
- 友達への手紙など、４～８文の簡単な文章を書く。
- 「そして」「でも」「それから」を使って連結した文章を書く。
- 手本を見て約20字の漢字を書く。
- ひらがなを正しい書き順で書く。

レベル５

レベル５では、生徒は10代の若者として経験することがらの範囲内で日本語を学習して使う。また、他の主要学習領域や新聞、雑誌から取り上げた彼らが一般的に関心をもつようなトピックについて日本語を学習して使う。

生徒は、話されたあるいは書かれたテキストにおいて様々な目的で日本語を使うことができ、学習者用に書き直された教材（例：語彙リスト付の簡単な民話や、英文の梗概付の短かい劇）に加え、時刻表、地図、価格表、天気予報、日本の若者向け雑誌の見出しやキャッチ・フレーズなどの生の資料から、事実に基づくあるいはそうでない情報を得ることができる。

生徒は、自分自身のことについて話すことができ、また、人と話をして事実に基づく情報を要求したり交換したりできる。さらに、「たい」を使うなどして自分の意見や計画を表現したり、何をするかを決めたりその準備したりすることができる。また、質問や、簡単な調査をしたり、辞書や統計資料を参照して情報を得ることができる。

生徒は、１分以内の口頭発表ができる。また、１人につき６～８回程度の発話からなる寸劇を書き、文化的に適切なジェスチャーを用いてその寸劇の役を演じることができる。正しい発音とイントネーションと語の区切り方で話すことができるようになる。

生徒にはファックスやインターネットを使った電子的なコミュニケーション、あるいは日本の同学年の生徒とのビデオ・カンファレンスを通したコミュニケーションが奨励されている。

生徒は、「です/ます体」の動詞、形容詞、形容動詞（な形容詞）の過去形を使うことができ、動詞のプレーンフォーム（plain form）の過去形もある程度なら理解できる。動詞の「て形」は聞いて分かる程度にとどまるが、生徒は動詞の「て形」には複数の機能（例：連続する動作を示す、指示を与える、「～にすんでいます」のように人やものごとの状態を記述する）があることは理解する。「たい」や「ほしい」を使って希望を表現したり、「だから」を使って理由を表現することもできる。

このレベルでは、生徒はひらがなの表記法をすべて身につけている。カタカナも読めるが、カタカナを書くときはカタカナ表が必要になる。少なくとも60字の漢字が読め、このうちの少なくとも40字は正しい書き順と字形で書ける。

作文に際しては原稿用紙を使うこともある。

生徒は、例えば日記、物語、事実の記録、個人の手紙／はがき／電子メール、記事、簡単なアンケートなどといったテキストタイプとその書き方の慣習を知っている。

生徒は、日本語と英語ではジェスチャーやマナーが文化的に異なる意味をもつことを知っている（例：手のひらを下に向けて振る、足を組んで座る、スープやお茶を音を立てて飲む）。

生徒は言語と行動の仕方や考え方が結びついていることを理解し、そして、この三者の関係が一定ではないこともある程度には理解する。今、日本で起きている出来事や問題となっていることなども取り上げられ話し合われる。そして、こうした出来事が世界中のどこでもで常に同じ角度から見られたり、報じられたりしているわけではないことも理解する。

カリキュラムの焦点

言葉が使われる場面や状況

レベル５では、10代の人が経験することや関心をもつこと（休日、学校生活、旅行など）を語るのに必要な言葉とそれにともなう内容、そして新聞や雑誌や他の主要学習領域から取り上げた言葉や内容を扱う。

タスク

このレベルでよく使われるタスクでは、いくつかのステップを踏むのが普通である。生徒はペアやグループになり、与えられた目的によって事実に基づく情報やそうでない情報を選んで、それを発表する。これらのタスクには、個人的なコミュニケーション（例：友人への電子メール）や週末・休暇の予定を立てるという内容のロールプレーの録音、CD-ROMの映像に添える文章、アンケート、口頭発表、インタビューなどがある。生徒は辞書や文法書、あるいは教師の作ったチェックリストを使ったりしながら自分たちの作ったものをより完全に修正・編集できるようになる。

テキスト

このレベルのテキストは長さは300字までで、生のテキストを大きく修正したものか、教師が作ったもの、あるいは、教科書のテキストを生の材料で一部補ったものである。それらは既習の構文に加え、新しい語彙も含んでいる。発話テキストには、前もって役割や状況が完全にはわからないような要素もある程度含まれている。書かれたテキストは、構造がはっきりしており、それぞれの段落はひとつの主題と、その主題を支えるための詳しい説明や具体例などの諸々の記述で構成されている。簡単な客観的事実を見つける練習のためには、バスや電車の時刻表、地図や価格表などの短い生のテキストを使う。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

レベル５の生徒は以下のことができる。

聴く

5.1　発話によるテキストや口頭のディスカッション・発表などの中で述べられた事実・考え・順序・理由を理解する。そして、その情報を利用して段取りを決めたり判断したりすることによって、理解したことを示す。

LOJAL502

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 与えられた情報から日付、時間、場所や交通手段などの重要事項を特定し、また、いろいろ意見が出た中から決められた行き先などの重要事項を特定できる。
- テキストを聞いて、それに合う意味を見つけられる。
  （例：テキストとイラストを正しく組み合わせる。選択肢から正しい文章を選ぶ）
- テキストタイプの特徴を認識できる。
  （例：電話での会話、口頭発表）

話す

5.2　話のやり取り（例：対話、調査、インタビュー）や、一定時間続ける話（例：口頭発表）において、事実に基づく情報、意見、計画を提示したり交換したりすることができる。

LOJAS502

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 最長で12～16のやり取りからなる会話やインタビュー、ロールプレーなどで意見や情報を交換できる。
- １分以内の口頭発表で相互に関連をもつ諸情報をまとめて呈示できる。
- 「まちに行きたいです。」といった主張や「かいものはどうですか。」といった提案ができる。
- あいづちや、「すごい！」「いいですね！」といった感嘆文を使って応えられる。
- 電話での「もしもし」や、口頭発表での「これでおわります」など、適切な開始、終了の表現ができる。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

読む

5.3　テキストを読んで、そこに述べられている主な考え・流れ・理由(例：「だから」)を理解し、ひらがな・カタカナ・漢字（少なくとも60字）の知識を使って、日本語あるいは英語での質問に答え、または、表・図・図解などを完成させる。

LOJAR502

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- ひらがな、カタカナと少なくとも60字の漢字が読める。
- 与えられた情報や考えの中から重要事項（例：位置、意見）を特定できる。
- テキストを読んで、それに合う意味を見つけられる。
  （例：正しい要約文を選ぶ、陳述文を順序正しく並べる、テキストとイラストを正しく組み合わせる）
- 接続詞（「だから」「でも」「そして」「それから」）や句読点（点［、］や丸［。］）の知識を使って、テキスト中に述べられている考えを関係づけることができる。
- 正しい発音とイントネーションでテキストを音読できる。

書く

5.4　少なくとも40字の漢字が書ける。ひらがな・カタカナ・漢字を使って、詳細な描写・簡単な空想作品・スピーチ原稿といった個人の情報や事実に基づいた情報を伝達する200字程度の文章を書くことができる。

LOJAW502

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 手紙や日記など異なったテキストタイプの書き方を使い分けられる。
- 正確な形のひらがな・カタカナと少なくとも40字の漢字を正しい書き順で書ける。
- 「そして」「でも」「それから」などの接続詞を使って文相互が正しくつながっている文章が書ける。
- 自分の文章を校正、訂正できる。

レベル6

レベル６では、生徒は10代の若者として経験することがらと関心を持つようなことがら（学校の日課、健康、娯楽、スポーツ、仕事）の範囲内で日本語を学習して使う。

生徒は、口頭または書面による日本語のテキストを様々な目的（例：日本国内を歩き回る、日本人を相手にする、仕事の手伝いを申し出る、など）で使い、描写したり、詳しく説明したり、意見を述べたり、理由を明らかにしたりする（例：「～から～とおもいます」）。

生徒は様々な口頭、書面テキストから要点と詳細を認識でき、獲得した情報や考えを、入手元のテキストタイプとは異なるテキストタイプで伝えられる。お知らせや旅行案内、パンフレットなど様々な短い生のテキストを扱う。

生徒はあいまいな点をはっきりさせたり、会話の流れを助けるために、適切なフィラー（つなぎ言葉）を使ったり、「ああ、そう［だ/ですね］」、「それから？」「もういちど言って［ください］」など、適切な応答をすることができる。さらに、適切な文体（くだけた（casual）スタイルか「です/ます調」のスタイルか）は聞き手、目的、コンテクストによって決まることを理解する。

生徒は言語習得には問題解決が伴うことを理解する。助詞の重要性などの文法のより一層複雑な様相を理解するようになる。辞書や電子辞書、イラスト入りの単語帳などを使って習っていない言葉を自分の運用力に加え、自分の言いたいことを言おうとする。

生徒は少なくとも90字の漢字を読むことができ、そのうち少なくとも70字は書くことができる。そして、ひらがな・カタカナ・漢字を使って350字程度の作文が書ける。短い物語を書いたり、イラスト入りのパンフレットのような情報を提供する文章を作ったりといった、創造的な書くタスクもある。

生徒は言語が変化するものであることを学び、そしてなぜそうなのかという理由についても少し勉強する。例えば、いわゆるカタカナ語と呼ばれる外来語の数がどんどん増えていて、その多くは英語から日本語へ入ってきたものであることを学ぶ。また、外来語はしばしば派生した異なる意味を持つにいたることも学ぶ。（例：ワイングラスのことを「グラス」、窓ガラスのことを「ガラス」、水を飲むためのグラスを「コップ」と呼んだり、茶碗に盛られる白米を「ごはん」、一方平皿に盛られるものを「ライス」と呼んだりするということ）

生徒は、表、チャート、統計や「こども百科じてん」のような簡単で絵入りの辞典を使って、人口、教育、環境、福祉などの現代社会の諸相を地球規模の視点で理解する。

カリキュラムの焦点

言葉が使われる場面や状況

レベル６では、10代の人が経験するであろうことから取り上げた言葉とそれにともなう内容を扱い、それには若い人たちの関心を引くような問題も含まれる。

タスク

このレベルのタスクは、様々な口頭または書面による材料から情報を得て、それを問題解決、意思決定、選択、理由付けや自分の意見、考えの形成に使う。

また、タスクに使われるテキストには仕事の面接、略歴、俳句などの詩、広告やパンフレットなど、今までよりも多様なタイプのものが含まれる。タスクを通じて生徒は、お知らせ、旅行案内、キャッチ・フレーズやデータなどより広く生の資料に触れる。生徒は話が通じないときには、「ええと」「そうだね」「それから？」「もういちどいって」などのフィラー（つなぎ言葉）や応答の言葉を使って問題を解決する。

読むタスクと書くタスクでは、正書法を十分に活用してひらがな・カタカナを使い読んだり書いたりする。書くタスクでは、ひらがな・カタカナ・漢字を使い350字程度で情報を伝達するための文章や創作の文章を書く。

テキスト

このレベルのテキストは、大部分が教科書と、生の材料を一部修正したものである。短い生の材料もそのまま使われる。テキストは少なくとも90字の漢字が読める生徒を基準に作られているが、生徒の読める範囲が広がるように、ふりがなをふった漢字も含む。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

レベル６の生徒は、以下のことができる。

聴く

6.1　客観的な事実に基づく情報や、事実に基づかない情報（要旨・意見・考えなどを含む）を理解し、その情報を使用して行動や判断の具体的な根拠を提供することにより、その情報を理解したことを示す。

LOJAL602

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- あるタスク（日本の都市で道を探したり、公衆電話を使うなど）を終えるためにその問題の解決に関係のある情報を見つけることができる。
- ２人以上の会話についていける。
- 電話の会話からの情報をメモにするなど、情報を異なるテキストタイプに移し換えることができる。
- 意思決定したり、薦めたり、判断したりするために情報のキーポイントを把握できる。

話す

6.2　経験や興味のあるトピックに関する情報を提示したり交換したり、考えを明確にしたり、説明したり、理由や意見を述べたりすることができる。

LOJAS602

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 質問したりコメントしたり、あいづちで応えたりといった方法や、話が通じなくなったときの手段である「もういちど言って［ください］」「それから？」などの表現を使って、会話のやり取りを維持する。
- 事実や意見を述べたりそれを支える具体例を述べたりするという３つの相互に関連する要素をふまえて会話に参加し、情報を交換する。（例：学校のせいふくはいいと思います。）
- ひとつの解説にいくつかの情報を盛り込むことができる。

読む

6.3　少なくとも90字の漢字を読むことができる。テキストの中の事実や考えを特定したり説明したりすることによって、あるいは理解した情報をもとのテキストとは異なるスタイルに変換して伝えることによって、テキストを理解したことを示す。

LOJAR602

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 少なくとも90字の漢字が読める。
- メイン・テーマ、考え、新しいポイント、文化的視野やそれらを根拠付けている部分を特定できる。
- お知らせや旅行案内など短い生の題材から行き先、天気、スケジュールなど情報のキーポイントを特定できる。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

書く

6.4　ひらがな・カタカナ・漢字（少なくとも70字）を用いて350字程度の、情報・考え・意見・理由や説明を伝達する文章を書くことができる。その文章には、複文や重文、そして様々な種類のテキストタイプを用いる。

LOJAW602

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 学習者用に書き直された生のテキストから得た情報を使って、350字程度の情報的に意味のある文章を書くことができる。
- 情報を、導入部、主部、結論というように明確に構成できる。
- 段落相互に関連性を持たせる。
- 簡単な作文作法を使って書くことができる。（文の長さを変える、具体的な数字、形容詞、副詞を使う。）
- 少なくとも70字の漢字を使うことができる。
- フィクションの伝記や短い物語などの創造的な文章が書ける。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

レベル６発展レベルでは、生徒は以下のことができる。

聴く

6.5　発展レベル　与えられた目的を遂行するために、客観的な事実に基づく情報や、事実に基づかない情報（事実かどうかがはっきり分かるように示されている場合も、そうでない場合もある）を理解し、それについての他の人からの情報を要約したり選んだり使ったりすることによって、元の情報を正確に理解したことを示す。

LOJAL605

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 情報を要約したり比較したりするのに役立つ細部の項目を選ぶことができる。
- 決定や見解を理由づける根拠をテキストから引き出すことができる。（例：「～から～と思います」）
- 問題を解決したり、見解の根拠を提示するために情報を使うことができる（例：「～から／ので～たいです。」「～たほうがいいでしょう。」）
- 話し手の使った言葉やトーンから、場面状況を理解できる。（例：10代の２人の会話、仕事の面接）

話す

6.6　発展レベル　証拠や理由によって裏づけされた意見を提示したり、段取りを決めたり、交渉して合意に達することができる。

LOJAS605

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- プレゼンテーションや会話を適切に始め、応え、締めくくることができる。（例：「～について話しましょうか。」「そうでしょうか。」「じゃあ、またあとで。」）
- 与えられた情報に基づいて話を進めることができる。
- ２人の会話やグループのディスカッションで話が途切れた時に、うまく続ける方法を知っている。
- 合意に達するために情報や意見、考えを求めたり提供したりできる。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

読む

6.7　発展レベル　少なくとも150字の漢字を読むことができる。あるテキストの中の事実・意見・考えを特定し、比較し、説明することができる。その情報をもとのテキストとは異なるスタイルに変換して伝えることができる。

LOJAR605

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 辞書などの様々な手段を利用して生のテキストから要点を読み取る。
- 例えば評論などの文章にある情報や意見を要約し、それについてコメントできる。
- 短い生のテキスト（物の見方・文化的観点・データなど）あるいは学習者用に書き直されたテキストを読んで、ある情報を特定したりその情報について説明したり情報を比較したりできる。
- 言語における文化的な特徴を認識できる。

書く

6.8　発展レベル　少なくとも110字の漢字が書ける。500字程度で、情報・考え・観点を伝達する文章を書くことができる。また、簡単な筋の創造的な文章を書くことができる。

LOJAW605

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 複数の資料から得た情報を基に有益な情報のあるテキストを書くことができる。
- ある考え方に説得力をもたせるために、その考えを支援するような情報を選択し使うことができる。
- オリジナルの物語、詩、劇を創作できる。
- 情報が適切かどうかを判断し、また情報を比較対照できる。

学習達成目標（learning outcomes）の概要

パスウェイ２（７年生から学習開始）

レベル	聴　　く	話　　す	読　　む	書　　く
4 A	4 A.1　5、6文からなる会話や自己紹介の中の個人の情報や事実に基づく情報を理解し、それを、指示に従ったり質問に答えたり表の空欄を埋めたりすることによって示す。	4 A.2　個人の情報や簡単な事実に基づく情報を会話やロールプレーの中でたずねたり交換したりすることができる。簡単な口頭発表ができる。	4 A.3　個々のひらがなを読むことができ、また、ひらがなで書かれた単語や簡単な文章が読める。簡単な漢字（例：一から十）も分かる。	4 A.4　4、5文からなる簡単な文章（100字程度）を書いて、個人の情報や事実に基づく情報を伝達することができる。
5 A	5 A.1　10〜12の意味的につながりのある文を聞いて、そこに述べられた事実・描写・出来事・好き嫌いなどを理解し、それを選択肢から選んだり、情報を要約したり、正しい順序並べ替えたりすることによって示す。	5 A.2　事実に基づく情報を求めたり与えたりすることができる。話の型が決まっているやり取り（簡単な手配をしたり買い物をしたり、など）の中で、簡単な意見が言える。	5 A.3　ひらがな・カタカナと少なくとも50字の漢字が読める。また、約20の短文からなるテキストから要点を抜き出したり、事実に基づく情報（天気・出来事の順序など）と事実に基づかない情報（意見や理由など）を特定したりできる。	5 A.4　正しい表記法（拗音「ゃ、ゅ、ょ、っ」、長母音など）でひらがなとカタカナを書くことができ、少なくとも40字の漢字が書ける。また、300字程度で、事実に基づく情報・順序・簡単な意見を伝える文章を書いたり、出来事や経験を描写する文章を書いたりできる。
6 A	6 A.1　事実に基づく情報やそうでない情報を理解し、また要点を理解する。そして理解したことを、要約したり説明したり、その情報を目的に応じて用いたりすることによって示す。	6 A.2　情報を提示したり交換したりできる。説明したり理由を述べたりできる。また、経験や関心のあるトピックに関して、自分の視点を表現できる。	6 A.3　少なくとも100字の漢字を読むことができる。800字程度の学習者用に書き直されたテキストを読んで、重要な情報、考え、順序などを特定することができ、その情報を目的に応じて分類、整理できる。	6 A.4　少なくとも70字の漢字が書ける。説明する、事実に基づく情報を伝える、あるいは想像したことを伝えるという目的のために、様々なテキストタイプ（例：手紙、レポート、連絡文、日記、スピーチ原稿、物語）で400字以上の文章を書くことができる。
6 A 発展レベル	6 A.5　発展レベル 事実に基づくテキストや想像に基づくテキストを聞いて、そこにある情報や考えを理解し、主旨と細部を特定できる。これらのことを、特定の目的のために情報を使うことによって示す。	6 A.6　発展レベル 社交的な場･口頭発表･インタビュー・授業での話し合いなどで、事実に基づく情報とそうでない情報を提供したり、個人的な意見を言ったりすることができる。	6 A.7　発展レベル 少なくとも150字の漢字が読める。1000字程度の学習者用に書き直されたテキストを読んで、事実に基づく情報とそうでない情報を特定し、説明し、比較することができる。	6 A.8　発展レベル 少なくとも110字の漢字が書ける。約500字で様々なテキストタイプの文章が書ける。この文章には、必要なもの/ことを選び、説明し、要約し、結論を導くというような要素が含まれる。

パスウェイ２

レベル４Ａ

レベル４Ａでは、生徒は自分たちが経験することがらや、他の主要学習領域と新聞・雑誌などから取り上げられたトピックという範囲の中で日本語を学習し使用する。トピックは原則的には人と人との間でのこと、例えば、自分、家族、友人、時間、日常生活、授業科目、食べ物、余暇、好き嫌いなどが扱われる。

生徒は、「スポーツをしますか」、「どこにすんでいますか」といった質問に答える形で自分自身について話し、それに関連した質問をすることができるようになる。生徒が使う言葉は、原則として習ったモデルに基づいていて、それに手を加えたり作り変えたりする。基本構文は「わたしはケイトです」のような「主語＋名詞＋です」と、「わたしはすいえいをします」というような「主語＋目的語＋動詞」である。また、生徒は、文脈から主語が明らかである場合には、「ケイトだ/です」、「すいえいをします」のように主語がしばしば省かれるということを理解する。

生徒は、文の構成部分にはそれぞれ専門の文法用語があって、単語、単語の機能、文の中での位置についてよく考えなければならないことを学ぶ。また、日本語、英語と他の言語との間には言語構造に違いがあることも理解する。生徒は、文章を疑問文にするときには文末に「か」を加えること、「は」は文のトピックを示すこと、場所の名前の後の「に」は英語の“in”や“at”にあたること、「を」は直接目的語を示すことなど、助詞の果たす重要な機能を理解する。また、この段階で動詞の「て形」が導入されるが、それは教室でよく使われる指示表現（例：たってください）に反応したり、「すんでいます」のような表現を暗記したりするという理解のみにとどまり、応用して使える必要はない。

生徒は日本語と英語、特に外来語や地名（例：ラジオと radio、メルボルンと Melbourne）の発音の違いを学び、また外来語とその元になった単語とが同じような音を持つことを外来語の意味理解に役立てる（例：コーヒー、パン、オリンピック、ステーキ、カフェ、パスタ）。また、日本語は、書き言葉にひらがな、カタカナ、漢字という３種のそれぞれ用途の違う文字をもつ独特な言語であることを学ぶ。ひらがなと簡単な漢字（例：数字の「一、二」など）で

書かれた100字程度のテキストを読むことができ、カタカナで書かれた自分の名前も分かる。基本ひらがなは書けるが、小さな「ゃ、ゅ、ょ、っ」や、「おとうさん」、「おねえさん」のような長母音の書き方は習得していない。日本語を書くときは、正しい書き順に従わなくてはならないことも学ぶ。

このレベルの生徒においては、主に事実、逸話や小話、地理の比較、時に旅行体験などが文化の学習に含まれる。生徒は基本的な日本の地理や歴史を学び、大きさ、位置、地形をオーストラリアのそれと比較する。また、日本の文化習慣もお祭りやそのほかの年中行事（例えば、「おしょうがつ」、「こどものひ」、「七五三」）に沿って学び、家や学校に入る前に靴を脱ぐなどの日常生活上の習慣もいくつか学ぶ。

生徒は今日の世界における日本人の役割について勉強する。また、歴史の一時期に多くの日本人が移住したハワイやブラジルなどの一部の地域では日本語が話され、特に貿易や旅行業界で日本語は国際的に使われる主要言語のひとつになっていることを理解する。

カリキュラムの焦点

言葉が使われる場面や状況

このレベルでは、生徒の経験（自分、家族、友人、時間、日常生活、学校の授業、食べ物、余暇）から取り上げた言葉や内容を扱う。

タスク

このレベルのタスクは、家族や友人、学校生活、社会・余暇活動に関連した親しみのある日常のやり取りを扱う。また異なる材料からの様々な情報、例えば、自己紹介のような短い事実に基づく情報、スポーツや好き嫌いといった情報、会話から情報の要点を特定すること、イラスト、写真、漫画のキャプションを読んだりすることなどを扱う。読むタスクには、簡単な漢字（一～十、日、本、語）、助詞の「は、か、に、を」の機能、小さいひらがな「ゃ、ゅ、ょ、っ」の理解が求められる。書くことを扱う発展タスクには、例えばひらがな五十音表などを使うといいだろう。

テキスト

テキストの文は、「主語＋名詞＋だ/です」の基本形にのっとった短いものである。聴くタスクはプレーンフォーム（plain form）を使った、くだけた（casual）スタイルを使ってもいいが、生徒の書く文章は助詞を正しく使った、「です/ます調」のスタイルである。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

レベル４Ａの生徒は以下のことができる。

聴く

４Ａ.１　５、６文からなる会話や自己紹介の中の個人の情報や事実に基づく情報を理解し、それを、指示に従ったり質問に答えたり表の空欄を埋めたりすることによって示す。

LOJAL4A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 指示に従って与えられたタスクを完成する。
- 質問に口頭で答えられる。
- 空欄埋め、表の完成、選択肢チェックなどのタスクができる。
- 長母音と短母音の音、短縮された音の違いが分かる。
  （例：「おじさん/おじいさん」、「すき/スキー」、「いっしょ/いっしょう」）
- 外来語とその元になった単語とが同じような音を持つこと（例：ケーキ、ミルク、メニュー）を利用して外来語の意味を推測する。

話す

４Ａ.２　個人の情報や簡単な事実に基づく情報を会話やロールプレーの中でたずねたり交換したりすることができる。簡単な口頭発表ができる。

LOJAS4A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 正しい発音とイントネーションで簡単な口頭発表ができる。
  （例：自己紹介）
- １人３、４回の発話のあるロールプレーに参加できる。
- 家族、友人、時間、日常生活、学校の授業、食べ物、余暇などの自身に関する質問をしたり答えたりできる。
- 自分とほかの人に関する簡単な事実情報を提示できる。
- 助詞、語順が正しく使える。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

読む

４Ａ.３　個々のひらがなを読むことができ、また、ひらがなで書かれた単語や簡単な文章が読める。簡単な漢字（例：一から十）も分かる。

LOJAR4A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 知っている文字からなるテキストを正しい発音、イントネーション、区切り方で音読できる。
- テキスト中の知っている単語を見つけて、その文章の中心となっている考えを特定する。
- 情報の選択、並べ替えができる。
  （例：ごちゃまぜになった単語を並べ替えるタスク）
- 簡単な漢字は個別に、あるいは文脈の中で理解できる。
  （例：一～十、日、本、人、語）
- テキストとその意味することとを一致させることができる。
  （例：文章と図、日本語と英語の一致や選択肢から正しい答えを選ぶなど）

書く

４Ａ.４　４、５文からなる簡単な文章（100字程度）を書いて、個人の情報や事実に基づく情報を伝達することができる。

LOJAW4A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- ひらがな五十音図の助けを借りて、例えばキャプションや描写、友人への短い手紙、会話のせりふなどのスタイルで簡単な文が書ける。
- モデルの文章や言葉を入れ替えられる文章を使って、独自の文章を書くことができる。
- 正しい語順で書ける。例：「主語＋名詞＋だ／です」、「主語＋名詞＋動詞」
- 「に」、「か」、「は」、「を」の助詞を正しく使える。
- よく知っている文字を正しい書き順と正確な字形で書ける。

レベル５Ａ

レベル５Ａでは、生徒は10代の若者として経験することがらの範囲内で日本語を学習して使う。また、他の主要学習領域や新聞、雑誌から取り上げた彼らが一般的に関心をもつようなトピックについて日本語を学習して使う。

生徒は、自分自身や家族、友達、好き嫌い、毎日の生活、そして余暇に行うことについて話し、出来事、物、人の外見を説明する。質問をしたり質問に答えたりすることによって、また、ロールプレーや寸劇に参加することによって、または約30秒ほどの口頭発表をすることによって他の生徒とやり取りする。口頭でのインターアクションを進めるための簡単なスキルを身に付けている。それは例えば、「すみません」「わかりません」「もういちどおねがいします」という表現や、「ええと」といったフィラー（つなぎ言葉）を使うことである。

生徒は、正しい発音（例：「ここ」と「こうこう」や「いっしょ」と「いっしょう」のように短母音と長母音とを区別すること）とイントネーションの重要性、そして、適切な場面でジェスチャーを使ったり視線をあわせたり表情を変えたりする、といった言葉以外のコミュニケーションの重要性を理解している。

生徒はひらがなに加え、カタカナを読んで書くことができる。さらに、少なくとも50字の漢字を読むことができ、そのうち少なくとも40字を書くことができる。また、ひらがな、カタカナ、漢字、そして正しい句読点の打ち方を使って、300字程度の文章を書くことができる。彼らは縦書き、横書き両方の原稿用紙の正しい書き方を理解している。

生徒は言語習得には問題解決が伴うことを理解する。助詞の重要性など、文法の種々の側面を意識するようになる。提出物などを書くときに、自分自身の言いたいことを既習の構文や語彙だけでは言い表せない場合、辞書・電子辞書・日本語ワープロを使用する。

生徒は言語が変化するものであることを学び、日本語においては、例えば、いわゆるカタカナ語と呼ばれる外来語の数がどんどん増えていて、その多くは英語から日本語へ入ってきたものであることを学ぶ。また、外来語はしばしば派生した異なる意味を持つにいたることも学ぶ。（例：ワイングラスのことを「グラス」、窓ガラスのことを「ガラス」、水を飲むためのグラスを「コップ」と呼んだり、茶碗に盛られる白米を「ごはん」、一方平皿に盛られるものを「ライス」と呼んだりするということ）

生徒は、話し言葉には異なるレベルがあることを学ぶ。「です/ます調」のスタイルは中立的な場合、もしくはフォーマルな場合(例：口頭発表をするとき）に使われ、プレーンフォーム（plain form）はうちとけた（casual）会話（例：家族や友達と会話をするとき）で使われるということを理解する。さらに日本語では、「ぼく」と「きみ」が男性用、「わたし」と「あなた」が女性用の呼び方、また「わ」は女性用の発話の終わりにつけられる、といった性別特有の語や言い回しがあり、近年その区別ははっきりしなくなってきているということも学習する。

生徒は10代の日本人のライフスタイルについて学び、オーストラリアの若者のライフスタイルや文化と比べて類似点と相違点の両方があるということを理解する。

カリキュラムの焦点

言葉が使われる場面や状況

このレベルでは、使用する言語とその内容は生徒の個人的な興味や経験（例：毎日の生活、余暇に行うこと、友達について）と10代の生活に関連している。

タスク

このレベルのタスクは、単純に組み立てられており、それらは家庭や学校、あるいは地域のコミュニティーにおいて日常行うことと関連している。また、タスクには説明するための単語の使用や、広い範囲の語彙や言い回しが含まれる。それらは、願望（「～たい」）や好みの言い回し（「～はすきです。」「～はきらいです。」）、単純な考えをやり取りすること（「～はおもしろいです。」「いっしょに行きましょうか。」）、そして情報を要約することを含む。話すタスクは、声の調子や正しい発音とジェスチャーに焦点をあてることを含む。書くタスクは、正しい書き順、字形、原稿用紙の使用法、そして句読点の打ち方に焦点をあてることを含む。さらに、タスクには「ぼく」や「わたし」のような性別特有の言い回しの使用を含んでもよい。

テキスト

このレベルで使用するテキストは、学習者にわかりやすいように書き直されており、主に教科書や教師が作った教材から集めたものであるが、適当な生教材（例えば日本の10代向け雑誌、漫画本、挿絵の入った物語の本、ビデオなど）も含む。このレベルのテキストは、正しい意味を伝えるために「て形」や助詞が果たす役割が重要であることを学ぶ上で助けになるだろう。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

レベル５Ａの生徒は、以下のことができる。

聴く

５Ａ.１　10～12の意味的につながりのある文を聞いて、そこに述べられた事実・描写・出来事・好き嫌いなどを理解し、それを選択肢から選んだり、情報を要約したり、正しい順序並べ替えたりすることによって示す。

LOJAL5A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 与えられた選択肢から正しい情報を特定することができる。
- 情報を要約することができる。
- 出来事の流れを特定することができる。
- 出来事の時間を特定することができる。（現在・未来・過去の出来事）
- 聞いて理解した情報の主な点を異なる様式、例えばチャートやグラフに配置しなおすことができる。

話す

５Ａ.２　事実に基づく情報を求めたり与えたりすることができる。話の型が決まっているやり取り（簡単な手配をしたり買い物をしたり、など）の中で、簡単な意見が言える。

LOJAS5A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 会話のやり取りを正しく始めて正しく終わることができる。
- 正しいジェスチャーを使うことができる。
- やり取りを維持するために、「すみません」「わかりません」「もういちどおねがいします」といった表現や、「ええと」「ちょっと」というようなフィラー（つなぎ言葉）を使うことができる。
- 手本となるものを下敷きにして書きかえ、ロールプレーや口頭発表をすることができる。
- 「だから」のような言葉を使って好みや選択の理由を言うことができる。
- 詳細を伝えるために形容詞を使うことができる。
- 参考資料（辞書や電子辞書など）を使って言葉を確認し、言い表したいことの範囲を広げることができる。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

読む

５Ａ.３　ひらがな・カタカナと少なくとも50字の漢字が読める。また、約20の短文からなるテキストから要点を抜き出したり、事実に基づく情報（天気・出来事の順序など）と事実に基づかない情報（意見や理由など）を特定したりできる。

LOJAR5A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 声に出して読んだり黙読したりするときに単語や語句の区切りを見分けることができる。
- 事実に基づくテキストあるいは想像に基づくテキストから重要な情報となる点（例：天気や出来事の順序）を特定することができる。
- 性別特有の言い回しが使われているテキスト（わたし/ぼく、あなた/きみ）や助詞の「わ」が使われているテキストを文脈から理解することができる。
- テキストから簡単な意見や理由を特定することができる。

書く

５Ａ.４　正しい表記法（拗音「ゃ、ゅ、ょ、っ」、長母音など）でひらがなとカタカナを書くことができ、少なくとも40字の漢字が書ける。また、300字程度で、事実に基づく情報・順序・簡単な意見を伝える文章を書いたり、出来事や経験を描写する文章を書いたりできる。

LOJAW5A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 縦書き、横書き両方の原稿用紙を使うことができる。
- 助詞の重要性など、文法に注意をはらいながら書いているということがわかる文章を作成することができる。
- 例えば手紙や電子メールやはがきを書くことによって、考えや情報が交換できる。
- 情報や考えをその内容に適したテキストの種類（例：物語・パンフレット・説明書・レシピ・電子メール）を使って提示することができる。
- 言葉の使い方を、例えば辞書や電子辞書を使って、自分で直すことができる。
- 正しい表記法（例：小さい「ゃ、ゅ、ょ、っ」や長母音など）を使ってひらがなとカタカナが書ける。
- 句読点が正しく打てる。

レベル６Ａ

レベル６Ａでは、10代の若者が経験することや興味をもつこと（例：学校生活、健康、娯楽、スポーツ、仕事）の範囲内で日本語を学習して使用する。また、日本に関する事実に基づいた情報について話し合うために日本語を学習して使用する。

生徒は、様々な目的のために話し言葉と書き言葉の両方で日本語を使用する。それは、例えば、日本のあちこちを歩いたり日本に留学に行ったりするため、何かを説明または詳しく描写したりするため、意見を述べてそれが正しいことを納得させるため、あるいはアドバイスを与えたりするため、などという目的である。生徒は、対面してあるいはチャットルームのような電子的な手段を通して、日本語を使いながら相手とつきあい対話を交わす。

生徒は話されたテキストと書かれたテキストから特定の情報を見つけるだけでなく要点も把握でき、事実と意見とを区別することができる。あるトピックについて調査研究をするのに、学習者用に書き直された資料や、アンケート、人に聞いたインタビュー、サーチエンジン、電子メールリストグループなどを利用することができ、そうして得た情報を、書き言葉や話し言葉、あるいはマルチメディアの形で再構成して人に提示することができる。

生徒は100字以上の漢字を読むことができ、ひらがな・カタカナおよび約70字の漢字を使って400字以上の文章を書くことができる。

生徒は、理由を示すための「から」「ので」の文型や、条件文、接続詞を使うことができる。生徒は、聞き手や目的、文脈に応じて適切な言語を使用することを学習する（例：くだけた（casual）スタイルと「です/ます調」のスタイル、個人的な手紙とフォーマルな手紙、漫画の吹き出しと年長者との会話など）。さらにスラング（例：「ちょうおもしろい」という時の「とても」を意味する「ちょう」）は注意して扱わなければならないということを理解している。

生徒は、現代日本の文化で起こりつつある変化について学ぶ。それは、「デジカメ」のような短縮語や形容詞化した外来語（「ハンサムな」「ロマンチックな」）のような言語の変化であったり、ファッションや一時的流行、そして若者のライフスタイルについてであったりする。生徒は、人口・教育・環境といった現代の日本社会の側面を調べるための情報源として、図表や統計、ビデオ、簡単で絵入りの百科事典（例：「こども百科じてん」）などを使うことができる。

カリキュラムの焦点

言葉が使われる場面や状況

このレベルでは、10代の若者が経験することや興味を持つこと（例えば学校生活、健康、娯楽、スポーツ、仕事）から取り上げた言葉や内容、および、日本に関連した事実情報を扱う。

タスク

このレベルのタスクは、口頭もしくは書き言葉で、個人あるいはグループで、情報を求めたり与えたりする。また、ロールプレーで話し合いをしたり交渉したりするタスクもある。これらのタスクのテキストのタイプとして、就職面接、履歴書、新聞・雑誌の記事、日本語の詩歌（短歌や俳句など）、短い物語、他の生の資料（学校の雑誌や学校新聞の記事など）が挙げられるが、学習者のために書き直しが必要になるものもあるだろう。さらにタスクには、話し合い、交渉、調査も含まれ、日本語ワープロの使用能力やウェブサイトの利用の必要性もでてくるかもしれない。

テキスト

このレベルでは、生のテキストがそのまま使用されることもあるが、ほとんどのテキストは教科書や生の資料（を学習者向けに修正したもの）から取り出されたものである。テキストにはふりがなのついた未習の漢字が含まれることもあるが、基本的には生徒がすべてのひらがなとカタカナ、そして100字の漢字が読めることを前提としている。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

レベル６Ａの生徒は､以下のことができる。

聴く

６Ａ.１　事実に基づく情報やそうでない情報を理解し、また要点を理解する。そして理解したことを、要約したり説明したり、その情報を目的に応じて用いたりすることによって示す。

LOJAL6A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- ものごと（例：旅行・レストラン・研究）がうまく実行できるように按配するために、それに関連のある情報を特定することができる。
- 要約を作成するのに必要な関連する項目を選択することができる。（例：ノートをとる、メモする、電話でメッセージを伝える、説明する）
- 様々なタイプのテキスト（例：詩歌、短い物語、電話での会話、就職面接など）の主な特徴を特定することができる。
- 事実と意見とを区別することができ、理由を特定することができる。
- あるテキストのタイプや話し手同士の関係に適切な話し方のスタイルを特定することができる。

話す

６Ａ.２　情報を提示したり交換したりできる。説明したり理由を述べたりできる。また、経験や関心のあるトピックに関して、自分の視点を表現できる。

LOJAS6A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- ほかの人からの情報を考慮に入れて、いろいろな催しや活動を計画することができる。
- 過去の出来事や将来の抱負を話し合うことができる。
- 様々なトピック（例えば、学校生活、健康、娯楽、スポーツ、仕事など）についての情報を求めることができる。
- 会話のやり取りをうまく続けるために、繰り返しを求めたり、言い換えたりするなどの方法を使うことができる。
- 考えと考えをつなげていくために、接続詞（例：「それから」「そして」「でも」など）のような文と文を連結する働きを持つ言葉を使うことができる。
- 意見を述べ、その考えが正しいということを、「から」や「ので」を使って説明することができる。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

読む

６Ａ.３　少なくとも100字の漢字を読むことができる。800字程度の学習者用に書き直されたテキストを読んで、重要な情報、考え、順序などを特定することができ、その情報を目的に応じて分類、整理できる。

LOJAR6A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- トピックを調査するために、学習者用にやさしく書き直された様々な日本語の資料（例えばアンケート、インタビューのスクリプト、サーチエンジンなど）を使うことができる。
- 生のテキスト（例えば旅行日程、雑誌、天気予報、ビデオなど）から必要な情報項目を特定することができる。
- 要約あるいは図の形式で詳しい情報を提示することができる。
- テキストに述べられている言語や行動の文化的に固有な特徴（例：若者が使う口語表現や、省略語、言語が変化するということ）を説明することができる。
- 初めて見る熟語（例：「毎月」「毎週」「毎朝」「毎晩」、「火山」「花火」「大火」「火事」）の中にある既習の漢字を読んで理解することができる。

書く

６Ａ.４　少なくとも70字の漢字が書ける。説明する・事実に基づく情報を伝える・あるいは想像したことを伝えるという目的のために、様々なテキストタイプ(例：手紙・レポート・連絡文・日記・スピーチ原稿・物語）で400字以上の文章を書くことができる。

LOJAW6A2

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 出所の異なる情報を合成して提示することができる。
- よく使われるテキストのタイプの書き方に従って書くことができる。
- 細部や言葉の調子に注意して、オリジナルの想像に基づく文章や有益な情報を提供する文章を作成することができる。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

６Ａ発展レベルの生徒は、以下のことができる。

聴く

６Ａ.５　発展レベル　事実に基づくテキストや想像に基づくテキストを聞いて、そこにある情報や考えを理解し、主旨と細部を特定できる。これらのことを、特定の目的のために情報を使うことによって示す。

LOJAL6A5

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 「から」「ので」や条件文を使うことによって、アドバイスをしたり原因と結果を説明したりすることができる。
- テキストの文脈を考えたり辞書を使ったりして意味を把握することができる。
- 情報や意見を要約したり比較したりするために必要な関連する詳細情報を選ぶことができる。
- テキストのある一面について意見を述べたり個人的なコメントを述べたりすることができる。

話す

６Ａ.６　発展レベル　社交的な場・口頭発表・インタビュー・授業での話し合いなどで、事実に基づく情報とそうでない情報を提供したり、個人的な意見を言ったりすることができる。

LOJAS6A5

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 「なぜ」や「どうして」という表現を使って、与えられた情報が適切であるかを判断し、その情報についての説明を求めることができる。
- 代替となる意見を述べることができる。
- トピックを変えたり問題を提起したり話し合いの場から抜けたりするための適切な方法をとることができる。
- さらに追求するための質問をしたり、そういう質問に答えたりすることができる。

読む

６Ａ.７　発展レベル　少なくとも150字の漢字が読める。1000字程度の学習者用に書き直されたテキストを読んで、事実に基づく情報とそうでない情報を特定し、説明し、比較することができる。

LOJAR6A5

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 学習者のために修正されたテキストに述べられている情報や考えを特定、説明、比較することができる。
- 入手可能な参考資料を使って、生のテキストの要点をつかむことができる。
- 物語、雑誌記事、あるいはドラマの台本などを読んで、そこに提示されているテキストの目的や文体、メインテーマや考えを特定し、説明することができる。

学習達成目標(Learning outcomes)　指標（Indicators）

書く

６Ａ.８　発展レベル　少なくとも110字の漢字が書ける。約500字で様々なテキストタイプの文章が書ける。この文章には、必要なもの／ことを選び、説明し、要約し、結論を導くというような要素が含まれる。

LOJAW6A5

生徒は以下のことができれば、この目標を達成している：

- 様々な参考資料（例：辞書、漢和辞典、文法書）を使って、書いたものを再編集しよりよいものにすることができる。
- 適切な情報を選んで、ある特定の目的に沿った要約を提示するために使うことができる。
- ある出来事、行動、視点、結論を説明するために、その説明を支える情報を選んで使うことができる。
- 「～より」「～のほうが」「いちばん」「なぜなら」といった比較表現、対照表現、そして形容詞や副詞を使うことで、詳しく説明することができる。

各言語の検定Ⅱ（Certificate Ⅱ in Applied Languages）モジュール2Ａ*の達成目標（outcomes）の概要

１．（空の）旅を計画し、料金を支払い、実行する。
２．（航空会社の）オフィスで顧客に応対する。
３．免税店や宝石店で客に応対する。
４．指示を求めたり、指示を与えたり、指示に従ったりする。
５．いろいろな感情について相手に尋ねたり、自分で表現したりし、そして他の人たちの示した感情表現に応える。
６．仕事で電話を使う。
７．２人の母語話者間の簡単な短い会話を理解する。
８．１人あるいはそれ以上の人の日本語母語話者と短い会話する。
９．短い対話、あるいは談話を記録する。
10．短い対話、メモ、メッセージ、あるいは談話を書く。
11．ホームステイあるいは宿泊施設について尋ねる手紙を書く。
12．検定Ⅱの範囲内で宗教についての基本的な知識を示す。
13．検定Ⅱの範囲内で社会的価値についての基本的な知識を示す。
14．専門的な言語の知識を伸ばす。
15．専門的な文化の知識を伸ばす。

＊詳細については*National TAFE Language Course : Stage One : Generic Curriculum, 1994*を参照のこと。同書は Australia Training Products（＋61-(0)3-9630-9836）から入手可能。

VET、CSF、VCE ユニット１と２の
達成目標(outcomes)を組み込んだタスクの概要の例

モジュール2 Aの達成目標	CSF の 達成目標	VCE の 達成目標	タ ス ク の 例
1	6A.1, 6A.2		あなたは海外で勉強するための奨学金をもらえることとなり、旅程表と荷物や出発時間や出発ゲートなどについての詳細を受け取った。あなたのフライトはすでに支払われているはずである。旅程表を使って、旅行代理店に詳細を確認しなさい。
2	6A.1, 6A.2		あなたは航空会社で働くための研修を受けていて、客からの質問に答えるのに役に立つ詳細なリストや、不安がっている客を、リラックスさせるためのいくつかのヒントのリストが与えられている。これらのリストを使って、初めて飛行機に乗るという、不安そうな客からの予約を受けなさい。
3		Unit 2, Outcome 1	ある客がカメラを買うことを望んでいるが、予算が限られていて、また何を買ったらいいかもわからない。この客がカメラを購入するのを手伝いなさい。そして必要な手続きと書類の説明をしなさい。
4	6A.1, 6A.2		あなたのホームステイ先の人が、あなたを駅で出迎えると言った。あなたはその街をよく知らないので、そこに行くための道順と、またどこで会うのかを教えてもらうことが必要である。ホームステイ先の相手と会話のロールプレーをしなさい。
5、6		Unit 2, Outcome 1	客が電話で、すぐにあなたの店の店長と話をすることを望んでいる。これで客が電話してきたのは 3 回目で、今大変怒っている。伝言を取り次ぐと申し出て、先方の都合のよい時間に店長本人から折り返し電話をすると約束をし、客を落ち着かせなさい。
7		Unit 2, Outcome 1	２つのインタビューを聞いて、野生の動物を保護することについて賛成と反対をしている意見のそれぞれの要点を書き出しなさい。
8		Unit 2, Outcome 1	あなたはやってきたばかりの生徒の面倒をみるように頼まれた。あなたとその生徒との共通の趣味や興味をいくつか見つけなさい。
9	6A.3		学校の掲示板にはってある意見・主張の貼り紙と、それを書いた人たちに関する説明を読みなさい。どの人がどの貼り紙を書いたのか示しなさい。
10	6A.4		あなたのペンフレンドは、おもしろいオーストラリア人とその人のパーソナリティーについて何か書かなければなりません。このペンフレンドに電子メールのメッセージを書いて誰かを推薦し、その人の詳細と参考資料の入手先を書き、なぜこれがよい選択だと思うかを説明しなさい。
11	6A.4		あなたはインターネットからホームステイについていくつか詳しい情報をダウンロードした。ホームステイの運営に関わる団体を選び、ホームステイの費用と場所について尋ねる手紙を書きなさい。なぜあなたがこの種類の宿泊形態を必要としているか、またいつ、そしてどのくらいの期間かを説明しなさい。
12		Unit 2, Outcome 2	与えられたテキストを読み、その情報を使って、ある地域、あるいはコミュニティーでの宗教と習慣とのつながりを説明する小論文を書きなさい。
13		Unit 2, Outcome 3	あなたがもらった贈り物、あるいは誰かにあげた贈り物について、その贈り物がどういう意味を持つのかに焦点をあてた日記あるいは短いストーリーを書きなさい。
		Unit 2, Outcome 3	ビデオに基づいてあなたの学校雑誌に記事を書きなさい。ある人がその人が学んでいる言語(LOTE)を話すコミュニティーを訪問する場合、その人が知っておかなければならないとあなたが思うポイントを要約しなさい。
14		Unit 2, Outcome 2	社会的地位と価値観についてのインタビューを聞き、その情報を使って、インタビューで述べられたいくつかの例を説明するパワーポイントによる発表を作りなさい。
15			LOTE を話す若者の間で今問題になっていることについて、主要な事実をいくつか提示してレポートを書きなさい。